

鳥羽みなとまちづくりシンポジウム

2006-4-16

鳥羽市
鳥羽商工会議所
GSデザイン会議
GROUNDSCAPE DESIGN INSTITUTE

鳥羽みなとまちづくり シンポジウム

伊勢湾口に位置する三重県鳥羽市は、複雑な地形と美しい海が織りなす自然美、九鬼水軍が本拠とした海城・鳥羽城の持つ歴史、そして鳥羽水族館やミキモト真珠島、多くのホテルなど観光資源にも恵まれたまちですが、近年は観光客も減少しています。

これまでに、まちの賑わいを取り戻そうと、さまざまな取り組みがなされてきましたが、海辺のプロムナード（カモメの散歩道・グッドデザイン賞受賞）の整備、まちづくり交付金事業の着手などを契機に、景観形成・協働のまちづくりの取り組みが活発化し、2005年度には新しい市長の下、「とばみなとまちづくり市民協議会」が立ち上げられ、市民、行政、専門家等が一丸となって鳥羽のまちづくりに取り組む体制が整いました。

ここで鳥羽のまちづくり本格始動を内外に宣言し、鳥羽の魅力を活かした景観形成への機運を高めるため、市民、行政、専門家を交えたシンポジウムを開催することといたしました。

本シンポジウムはGSデザイン会議が地方のまちづくり・景観形成を支援する活動の第一弾です。皆様のご参加・ご支援をお待ちしております。

日時：2006年4月16日（日）13:30-17:30

会場：鳥羽商工会議所かもめホール
（三重県鳥羽市大明東町1-7）

申込方法：要申込 定員200名

Webサイト

（GSデザイン会議

<http://www.groundscape.jp/>）

または鳥羽市まちづくり課へ直接電話申込

問い合わせ先：

鳥羽市まちづくり課 0599-25-1178

プログラム

13:30-13:40 開会挨拶 木田久主一（鳥羽市長）
篠原修（東京大学教授・GSデザイン会議代表）

13:40-14:00 講演「鳥羽への期待（仮）」
内藤廣（建築家・東京大学教授・GSデザイン会議代表）

14:00-15:00 発表「動き出した とばみなとまちづくり（仮）」
とばみなとまちづくり市民協議会
岡村康史（鳥羽市まちづくり課）
西村浩（ワークヴィジョンズ）

15:00-15:40 事例報告・歴史と水辺を活かした景観形成
桑名市 石川雅己（三重県桑名市都市整備部長）
日南市油津 小野寺康（小野寺康都市設計事務所）

15:40-15:55 休憩

15:55-17:25 パネルディスカッション「本格始動・鳥羽みなとまちづくり」
コーディネイター：内藤廣（前出）

パネリスト： 木田久主一（前出）
亀川洋（鳥羽商工会議所）
水谷伸子（手づくり工房きらり運営委員長）
野村史隆（鳥羽市文化財専門委員）
篠原修（前出）
西村浩（前出）

17:25-17:30 閉会挨拶 中井祐（東京大学助教授・GSデザイン会議幹事長）

17:30-19:00 懇親会（別途）

主催：鳥羽市・鳥羽商工会議所・GSデザイン会議
後援（依頼中）：国土交通省中部地方整備局、三重県
（社）三重県建築士会志摩支部
（財）都市づくりパブリックデザインセンター
（社）土木学会景観・デザイン委員会

鳥羽みなとまちづくりシンポジウム

目次

2006-4-16

02 登壇者紹介

04 開会挨拶

木田久主一／鳥羽市長

篠原 修／政策研究大学院大学教授・GS デザイン会議代表

06 講演 鳥羽への期待

内藤 廣／建築家・東京大学教授・GS デザイン会議代表

10 発表 動き出した とばみなとのまちづくり

岩佐政徳／とばみなとまちづくり推進協議会座長

世古貢／とばみなとまちづくり推進協議会副座長

川村透／NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会

岡村康史／鳥羽市まちづくり課

西村浩／ワークヴィジョンズ

28 事例報告 歴史と水辺を活かした景観形成

桑名市 石川雅己／桑名市都市整備部長

日南市油津 小野寺康／小野寺康都市設計事務所取締役

38 パネルディスカッション 本格始動・鳥羽みなとまちづくり

コーディネイター

内藤廣／建築家・東京大学教授・GS デザイン会議代表

パネリスト

木田久主一／鳥羽市長

亀川洋／鳥羽商工会議所副会頭

水谷伸子／手づくり工房きらり運営委員長

野村史隆／鳥羽市文化財専門委員

篠原修／政策研究大学院大学教授・GS デザイン会議代表

西村浩／ワークヴィジョンズ

48 閉会挨拶

中井 祐／東京大学助教授・GS デザイン会議幹事長

50 来場者アンケート集計結果

57 開催概要

■木田久主一（きだ くすいち）／鳥羽市長

1948年三重県生まれ。1970年三重大学農学部を卒業後、自営業（農業）に従事。1972年から74年まで農業研修でアメリカ合衆国滞在。鳥羽市議会議員（1991～1999）、三重県議会議員（1999～2005）を経て、2005年4月より現職。

■篠原 修（しのはら おさむ）／土木設計家・政策研究大学院大学教授・GSデザイン会議代表

1945年生まれ、神奈川県出身。東京大学大学院修士課程修了後、（株）アーバンインダストリー、東京大学農学部林学科、建設省土木研究所、東京大学工学部土木工学科などを経て、2006年4月より現職。主な設計指導・監修にJR東日本東京駅高架橋（東京）、津和野川護岸・広場（島根）、勝山橋（福井）、龐大橋（福岡）ほか。

■内藤 廣（ないとう ひろし）／建築家・東京大学教授・GSデザイン会議代表

1950年神奈川県生まれ。1976年早稲田大学大学院修士課程修了。フェルナンド・イゲーラス建築設計事務所、菊竹清訓建築設計事務所の勤務を経て、1981年内藤廣建築設計事務所設立。2003年より東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授。芸術選奨文部大臣新人賞、日本建築学会賞、毎日芸術賞などを受賞。主な作品は、海の博物館（三重）、安曇野ちひろ美術館（長野）、牧野富太郎記念館（高知）、島根県芸術文化センター（島根）など。

■西村 浩（にしむら ひろし）／ワークヴィジョンズ代表

1967年佐賀県生まれ。1993年東京大学大学院修士課程修了。GIA設計を経て1999年ワークヴィジョンズ設立。国土交通省東北地方整備局デザイン研修講師、日本大学非常勤講師、東北大学非常勤講師。主な作品に鳥羽市カモメの散歩道（住民参画による設計監理、グッドデザイン賞、鳥羽市）、近鉄アンダーパス上屋（鳥羽市）、岩見沢駅舎及び複合施設（デザインコンペ最優秀賞、北海道）、水辺の森公園橋梁群（グッドデザイン賞金賞、長崎）、万橋（グッドデザイン賞、長崎）など。

■岩佐 政徳（いわさ まさのり）／とばみなとまちづくり市民協議会座長

■世古 貢（せこ みつぐ）／とばみなとまちづくり市民協議会副座長

■川村 透（かわむら とおる）／NPO法人伊勢志摩NPOネットワークの会

■岡村康史（おかむら やすし）／鳥羽市まちづくり課課長補佐

■石川雅己（いしかわ まさき）／桑名市都市整備部長

1950年東京都生まれ。1974年名古屋大学工学部卒業。1977年桑名市役所入所。中心市街地整備課長などを経て、2004年より現職。桑名市のまちづくりに一貫して携わる。

■小野寺康（おのでら やすし）／小野寺康都市設計事務所取締役

1967年北海道生まれ。1987年東京工業大学大学院修士課程修了。アブル総合計画事務所を経て1993年小野寺康都市設計事務所設立。東京工業大学非常勤講師、早稲田大学非常勤講師、国土技術政策総合研究所研究講師、東京都文京区景観アドバイザー。主な作品に門司港レトロ地区環境整備（土木学会デザイン賞最優秀賞、福岡）、桑名住吉入江（土木学会デザイン賞優秀賞、三重）、与野本町駅西口都市広場（土木学会デザイン賞優秀賞、埼玉）、浦安 境川（土木学会デザイン賞優秀賞、千葉）、油津堀川運河（宮崎）など。

■亀川 洋（かめがわ ひろし）／鳥羽商工会議所副会頭

1943年三重県生まれ。1961年県立志摩高等学校卒業。建材業設立（1961～1966）後、1966年父の経営する（株）亀川組入社。専務取締役を経て1997年より代表取締役。（社）三重県建設業協会志摩支部理事、全日本漁港建設協会三重県支部理事、監事、三重県港湾空港建設協会理事などを歴任。2004年より現職。

■水谷伸子（みずたに のぶこ）／手づくり工房きらり運営委員長

三重県生まれ。名城大学商学部卒業。鳥羽商工会議所女性部第4代会長（1997～1999）。2002年より現職。快適空間TOBA部会副会長、まちなみ水族館実行委員長など、鳥羽市中心市街地のまちづくりにおいて継続的に活躍。

■野村史隆（のむら ふみたか）／鳥羽市文化財専門委員

1948年三重県生まれ。名城大学商学部卒業。海の博物館学芸員（1971～2003）、鳥羽市文化財調査委員（1973～）を経て、2003年より現職。三重県史（民俗）編さん委員（2003～）。日本民具学会会員。鳥羽市の歴史・民俗に詳しい。

■中井 祐（なかい ゆう）／東京大学助教授・GSデザイン会議幹事長

1968年生まれ、埼玉県出身。1993年東京大学大学院修士課程修了。アブル総合計画事務所、東京工業大学工学部社会工学科、東京大学工学部社会基盤学科を経て、2004年より現職。主な作品に、河戸堰・松田川河川公園（高知）、岸公園（土木学会デザイン賞最優秀賞、島根）など。

開会挨拶

●木田久主一／鳥羽市長

皆さん、こんにちは。只今ご紹介いただきました鳥羽市長の木田でございます。

鳥羽市は人口約2万4千人の小さな街ですが、大きな観光資源に恵まれていると考えております。例えば、離島の島々、リアス式海岸の織りなす自然美、そこで獲れる豊かな海の幸、九鬼嘉隆等を代表とする歴史・文化、御木本真珠島、鳥羽水族館、海の博物館、多くのホテル、などといったものです。三重県北西部は沢山の企業が来て一年間で約一兆円の工業出荷額が伸び、県南部は地理的な条件から観光に期待をするところが大きいと野呂知事はおっしゃっていますが、そのように、我が鳥羽市も今後観光関係に力を入れて伸びていかなければならないと色々な方々が感じておられるのではないかと思います。以前、鳥羽市には約700万人の観光客が来ていましたが、昨年は万博の影響等もあり、500万人を少し切る程度になっています。このような背景の中、豊かな観光資源を生かしつつ、現在やや欠けている「空間快適性」を高めることで、沢山の皆さんに来ていただけるように関係各位頑張っておられるのだと考えております。その中で鳥羽市は平成15年度に「まちづくり戦略会議」を立ち上げさせて頂きました。空間快適性を高めるためのさまざまな議論をすべく、篠原教授と内藤教授にこのデザイン戦略会議に入って頂いています。また、昨年の9月に「鳥羽みなとまちづくり市民協議会」という会を立ち上げさせて頂きました。これからの行政に欠かせない「市民との協働」を図り、皆さんの御意見を伺っていこうという趣旨の会です。合意形成を図りながら基盤整備を進めていけるよう、今後とも頑張っていきたいと思っております。

「まちづくり交付金事業」は平成21年度までの計画で、また、マリントウン21事業の第1期工事は平成20年度頃の完成を目指しており、今鳥羽は重要な時期に差し掛かっていると言えます。一方、様々な施策を通じて多角的にまちづくり・観光行政に寄与して行こうと考えています。例えば、ポイ捨てゴミを回収するパトロールカーを走らせ、毎日ゴミを回収することによって鳥羽の街を綺麗にし、綺麗にすることによってゴミのポイ捨ても少なくなるだろうと考えています。このようなことを含めて、これから総合的に鳥羽市のまちづくり、鳥羽市づくりをしていきたいと考えております。

今日はこのシンポジウムを契機にしまして、市民の皆さん、行政一緒になって一杯同じ方向に進むことが出来ますように、心より御祈念を申し上げます。県内外からたくさんの方に参加をしていただき、ありがとうございます。市民を代表いたしまして御礼の言葉に代えたいと思っております。今日は本当にありがとうございました。



木田久主一・鳥羽市長



篠原修・政策研究大学院大学教授

●篠原 修／政策研究大学院大学教授・GS デザイン会議代表

我が国でも景観法という法律が出来ました。「美しいまちをつくろう」という法律ですが、これは、私の考えによるとヨーロッパやアメリカに遅れること 100 年です。

年に 1 回か 2 回ヨーロッパに参りますが、町の規模の大小に関わらず、「歩いてみたいな」とか「ちょっと街角のカフェで休んで散歩している人を見てみたいな」と思わせる魅力的なまちが随分ございます。ところが、わが国の場合——残念ながら鳥羽もそうだと思いますが——まちに着いていきなりホテルに入ることが多い。まちをぶらぶらしてみようかなと思える街は残念ながら少ない。理由は幾つかあると思いますが、恐らく 1 番大きな理由は 60 年前戦争に負けて、とにかく経済一辺倒・効率一辺倒で走ってきたことだと思います。まちの美しさや快適な空間よりも、とにかく生産性や収入を上げなければと考え実践してきたことが 1 番大きかったと思います。

しかし、他にも幾つか理由があって、その 1 つにまちづくりに関する法律があります。日本の場合は都市計画法で、これを明治以来極めて中央集権的にやってきた経緯があります。簡単に言うと、最初に東京で都市計画をつくり、その次に横浜や神戸や名古屋でつくる。戦後になってようやく全ての市町村で都市計画をやるようになる。つまり、まちづくり・都市づくりをまず東京で考え、地方の皆さんは東京で考えたやり方に従ってやってもらうという構図になります。もっとはっきり言うと、市町村は県の言うことを聞いていれば間違いはなく、県は国の言うことを聞いていれば間違いがないということになります。このようなやり方で 100 年以上やってきた訳です。江戸時代は地方分権でしたから、——鳥羽でもそうだったと思いますが——それぞれの街に個性があり魅力があった。それが明治以来、画一化されてしまった。三重県は名古屋のような活気のある都市になりたいと考え、名古屋は東京みたいになりたいと考える。このような考え方ややり方ですとやってきたことが失敗の 2 番目の原因だったのではないかと思います。

3 番目の原因は、都市がどういう風に出来ているかということに関係します。都市は、実は村でできているのです。私は専門が土木です。内藤さんは専門が建築です。他にまちづくりに関わる人には、造園やデザインや鉄道の人もいます。つまり、都市をやっていると言いつつ、実は都市を作っているのは、土木村と建築村と造園村というように村ごとに分かれてやっているのです。僕の専門の土木村は更に^{おおあぎ}大字鉄道、大字港湾、大字道路というように分かれていて、実はお互いあまり交流がないのです。そういう風に同じ都市をやっているつもりでも、実際は全部村に分かれていて、さらに村の中でもお互いに交流がない。本当は大きな町を作らないといけなのだけど村同士に分かれていて、連携をとってやっていない。これが良いまちができた 3 番目の大きな理由だろうと思います。もう少し言うと、専門家同士で交流が無かったことに加えて、市民と専門家の交流もなかった。それぞれが勝手にばらばらな方向を向いてやっている訳ですから、統一的で個性的な街が出来るわけがないのです。

このGS会議は、去年内藤さんと 2 人で代表になって立ち上げた訳ですが、都市計画、土木、建築、デザイン、造園、歴史などの専門家が入っておりまして、それぞれが勝手にやるのではなくチームを組んで議論をしながらやりましょう、という風に進めております。鳥羽に関してもそのつもりでやっております。鳥羽の仕事をしている西村君もそのメンバーですし、事例発表する桑名の石川さんも油津をやっている小野寺君もそのメンバーでございます。それぞれが発表いたしますけれども、個人でやっている訳ではなくてそれぞれ他の専門家の意見を取り入れながら、市民と対話しながらやっていく。それが新しい街づくりの一つのスタイルであると思っています。鳥羽の場合は、こちらにお邪魔してからそう年月が経っておりませんから、未だたいした成果は出ておりませんが、皆さんと議論しながらなんとか嘗ての栄光ある個性に満ちていた鳥羽の姿を取り戻すため、多少とでもお手伝いできればという風に思っております。

本日はたくさん市民の皆さんにお集まり頂きまして、どうもありがとうございました。

「GSデザイン会議」について補足をするところから始めたいと思います。「GSデザイン会議」は、優れた土木、都市、建築、造園、工業デザインなどのまちづくりに携わるメンバーが集まって実際にまちを変えていこうという集団です。本来ならまちづくりに携わる専門の集団は10年20年かけて肅々と育つべきものだと思うのですが、日本の都市の変わり様を見るに10年も20年も待ってられない状況です。そこで、ともかく精鋭を集めてまちづくりのお手伝いが出来るような集団を作ろうということになり、「GSデザイン会議」を立ち上げました。名前には「会議」と付きますが、ただ会議をしている団体ではなく、実際に街を変えていこうという集まりです。

私は1985年から鳥羽に通い始めています。きっかけは、セゾングループが現在の海の博物館のある一帯に芸術村を作る為のデザインコミッティーを設立したことです。今は亡きグラフィックデザイナーの田中一光さんなど錚々たるメンバーがデザインコミッティーとして集まって議論しました。私がデザインコミッティーに入って1年目ぐらいに海の博物館の館長と出会い、海の博物館の誘致・設計を開始しました。その後、セゾンは撤退しましたが、私は海の博物館の設計を続けました。海の博物館は1985年に設計が始まり1992年の半ばに完成しましたから、私は鳥羽に8年弱、回数にすると200回ぐらいは通っていると思います。更に現在も鳥羽のまちづくりに関わっていますので鳥羽のことを少しは知っているつもりです。たまには外の人間が来て、鳥羽が外からどのように見えているかをお伝えするのも良いのではないかと私の意見を申し上げたいと思います。外から来た人間にとにかく言われたくはないと思われるかもしれませんが、今日一日はご勘弁ください。

鳥羽も随分変わりました。初めて鳥羽に来た1985年の頃は、鳥羽水族館がまだ奥の方にあり、ブラジル丸も泊まっていた。駅を降りて橋を渡ると色々な物売りがあり、やや鄙びた田舎情緒が漂っているような港町、あるいはちょっと古いタイプの観光地という印象を受けたのを覚えています。東京から名古屋を経て鳥羽に至る間の2つのフィルター——鳥羽という街が東京近郊の観光地とは性格が異なる事、東京と名古屋・大阪圏の人では観光スタイルが異なる事——を通したとしても鳥羽は少し古いかもしれないと思っていましたが、そういう古いタイプの情緒もそれはそれでいいかなとも思っていました。しかしバブルがはじけ、そのまま勢いがなくなったのが今の鳥羽の状態だと思います。

私は鳥羽に限らず全国の中小都市はこれから勝負どころだと思います。行政上の仕組の変化やそれに伴うお金の出方の変化に対応するべく、地方は地方で各都市がきちんと考えていかなければなりません。今までのように行政の上位団体に従っていれば良いという世の中ではなくなりつつあるのです。つまり、皆さんが主体性を持ってどういうまちづくりをしたいかということ、まとまった形と言わないと他の都市にどんどん遅れをとることになります。まちづくりは今が分かれ道です。何もしなければ高齢化社会で市の財政は圧迫され続け、その状態は加速度的に進んでいく事は数字上明らかです。あまり面倒臭いことはやらないでそのまま緩やかに衰退し、幸せな死を迎えるという選択肢もあると思います。しかし「ちょっとがんばって、やっぱりもう一回蘇生しよう」という方向に皆さんが足を進めるのであれば、この何年かが分かれ道だと思っています。

鳥羽市において「デザイン戦略会議」という組織を作って頂きました。篠原さんと私とで合わせると日本全国で20都市程のまちづくりに関わっているのですが、その中で「デザイン戦略会議」というものをきちんと開いて頂き、議論をする状態になったのはおそらく鳥羽市が最初ではないかと思っています。鳥羽市の真剣な考えもこちらに伝わってくるし、議論も活発になり良い状態が生まれつつあると思います。

能書きばかり言っても仕方がないので、鳥羽が再生するために解決しなければならないことを、4項目ほど簡潔に挙げたいと思います(9ページ参照)。本当はもう少し厳しいことを書かなければいけないと思ったのですが、少しソフトな書き方になっています。

1つ目は駅前の導入部についてです。駅前から港や街への導入部は、言ってみれば街の玄関ですから、ここの作り方は



大事だと思います。鳥羽に関わり始めた頃からの印象ですが、駅の周辺は近鉄の城下町みたいな感じがありました。一時期はそのようなモデルで駅前にお金が落ちていたようですが、もうそういう時代ではないだろうという気がします。駅前から港や街への導入部は駅前整備で良くなってきましたがまだ魅力に欠けます。マリンタウン予定地側の話と併せてもう少し考えるべきだと思います。

2番目は歴史性についてです。鳥羽は今までそれなりに狭い平地にどうやって観光施設をつくるかということで頑張ってきたと思うのですが、その為に歴史性を見失いがちでした。しかし、まちづくりでは少なからず歴史性を軸にして街の目鼻立ちをはっきりさせることが必要なのです。鳥羽に関して言えば、九鬼水軍の居城があったということは大きなアドバンテージだと思います。私は海の博物館に通っていた時に、そこが九鬼水軍の城であったと知らずに城山の前を何百回と往復していました。手前にはパールロードビルがあり、近鉄線からは城山がよく見えない状態でした。鳥羽のまちづくりに関わるようになり、城山に部分的に残る石垣を見て初めて知りました。それが5年前のことです。地元の方はもちろんご存知だと思いますけど、何百回も通っていた私でさえ知らなかった。つまり、外から見るとそれぐらい分かりにくいという事です。これからは歴史を軸にして街の目鼻立ちをはっきりさせ、鳥羽に来る方にも分かりやすい状態にすることが大事だと思います。今までの鳥羽の進み方とは正反対の方向ですが、「やはり歴史のことも考えよう」とか「歴史も鳥羽の骨格のひとつだ」と考え始めることで、結果的には大きな違いが出てくると思います。

3番目としては、やはり妙慶川が気になります。冬場はあまり臭いませんが、夏場の妙慶川沿いでは食事や散歩をしたくならないのではないのでしょうか。色々な問題があることは承知しておりますが、鳥羽の街の事を考えれば、やはり妙慶川環境がよくなると大分違うだろうなと思います。妙慶川環境を改善する智恵を出す必要があると思います。

4番目はマリンタウンです。マリンタウンは平地の少ない鳥羽の中で大きな可能性を秘めていると思います。駅から近い為、鳥羽の顔としての役割もある上に、離島の発着点でもあるので非常に重要な場所です。最終的には鳥羽の命運を決する程の重要な計画になってくると思います。ゆえにきちんと整合性をもった施策を作っていかなければなりません。それには県・市・住民の方々が三位一体にならないとうまくいきません。現在はまだうまく連携がとりきれていない様子です。例えば、県と市のヴィジョンやイメージが未だ固まりきっていないと聞いております。また、海側の繋がりで言えば、西村さんがやった「かもめの散歩道」で海辺の印象が随分変わりましたが、その周辺部もしっかりと作っていかなければいけないと思います。

項目は以上の4点です。あえて鳥羽小学校の話は言いませんでした。これは長年の課題なので敢えて語らずに通り過ぎたいと思います。

次に施策の話に移ります。現在、地方の活性化の為に「まちづくり交付金事業」というものが動いております。鳥羽はこれを有効活用しないといけません。ひょっとしたらこの「まちづくり交付金事業」が、具体的にお金がついて市街地を再生するラストチャンスかもしれません。これからは「まちづくり戦略会議」と「鳥羽みなとまちづくり市民協議会」も協力して具体的な方針を立てていくことになると思います。また、施策を考える上では市と県の連携が大切です。野

呂知事とお話をする機会があったのですが、県の思いと市の思いが必ずしも一致していないな、組織の論理が働いてうまく意思疎通できていないなと感じました。やはり市と県で連携してまちづくりに対して一石二鳥の相乗効果を狙うべきです。本音を言うと、県も市も潤沢にお金がある訳ではありませんから、何かにお金を投下するのであれば、両者が知恵を出し合って一石三鳥になるぐらいでなければいけないと思います。

何年か前のまちづくりシンポジウムで、私は2005年・2006年は日本全体の潮目が変わる時期だと申し上げました。これは日本の人口が増加傾向から減少傾向に転じる時期なのです。私は、今までとは全く違う世の中が出来てくると思っています。つまり、今日よりも明日の方がやることが多い社会から、今日よりも明日のほうの方がやることが少なくなる社会になるかもしれない、今年よりも来年の方が確実に収入が増える社会から、今年よりも来年は収入が少なくなる社会になるかもしれない、そういう気持ちを抱く時代になると思います。これは良いことだと私は思っています。なぜなら、来年の方が収入は少なくなるかもしれないが、心にゆとりが生まれるかもしれないし、好きなことをする時間ができるかもしれないと考えることも可能だからです。実は、鳥羽市のまちづくりはそういう時代に対してどのようにまちをつくっていくのかが問われている状況にあると言えます。ちなみに日本の人口は50年後には現在の7割の9000万人から1億人ぐらいになります。その次の50年で更にその7割になります。つまり、100年後、皆さんの孫かひ孫ぐらいの頃には、現在の人口の半分ぐらいになると予想されています。問題は、そのうちの7割が首都圏に住み、地方都市は激しい人口減少の状態になることです。私は、その中で地方都市の選別が行われると思っています。きちんとまちづくりをやったところは体力があるが、考え無しにまちづくりをやったところは確実に選り分けられます。言葉はあまり好きではないですが、この10年、20年はそういう勝ち組、負け組がはっきりしてくる時期だろうと思います。

鳥羽は沢山の宝物を持っていると思います。歴史的なものもたくさんあります。歴史を大切にしようと言うと格好いいのですが、もう少し打算的に言うと、歴史をうまく使ってまちづくりをすることが一番効率的だと思います。新しく歴史的なものを作り出すというのは大変です。私は鳥羽と言う街に対してお世話にもなりましたし、色んな関わりもできてきています。様々な問題はありますが、それらを解決し、良い方向に向かって欲しいと願っています。今日のシンポジウムは高い壇上から話をさせて頂いていますが、本来「GSデザイン会議」はこういう高い壇上から話をする様な集団ではありません。むしろ市民の皆さんの中に入って一緒に汗をかき、議論を議論だけで終わらせないで実際に動いてものを作っていき、そういう集団であります。鳥羽のまちづくりに対する関わりはこれからも続くと思います。篠原先生、私、それから今日これからプレゼンテーションするようなメンバーも、皆さんの中に入って一緒に議論をしてまちづくりのお手伝いをしていきたいという風に思っております。よろしくお願い致します。

鳥羽への期待

内藤 廣

鳥羽とのお付き合いは二十年になる。この間に鳥羽は変わっただろうか。確かに、ブラジル丸が無くなり、海への見通しが良くなったし、プロムナードが整備され、ずいぶんと変わってきた。しかし、街を歩けば、まだまだ勢いが足りない。鳥羽という街の骨格が見えてこない。だから印象が散漫で希薄だ。寂れた印象を払拭するには、ここからが正念場だ、という気がしている。鳥羽という街は、様々なものが複雑にからみ合っているが、鳥羽が再生するためにはそれ乗り越えて解決しなければならない課題がいくつかある。これらにどのように対応するかが再生の鍵になるはずだ。

[項目]

- 駅前から港や街への導入部に力がない、魅力に欠ける
- 歴史を軸にしての街の目鼻立ちをはっきりさせる
 - 九鬼水軍を売り物にする 歴史・海・街
 - 鳥羽小学校 鳥羽の近代史の象徴として
- 街の快適性を増す
 - 妙慶川の臭いをなくすことが必須
- マリントウン開発を最後の大きなチャンスととらえる

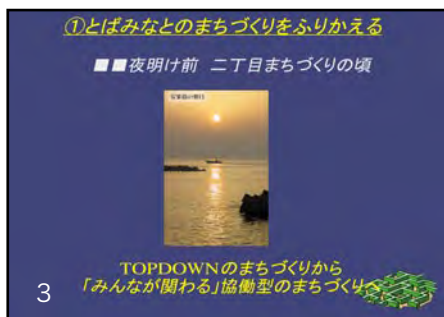
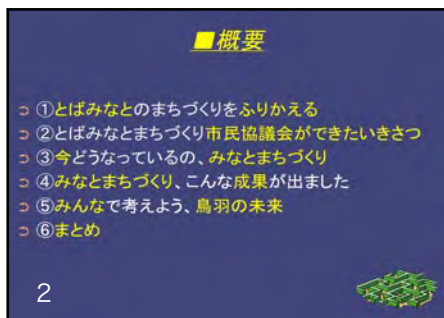
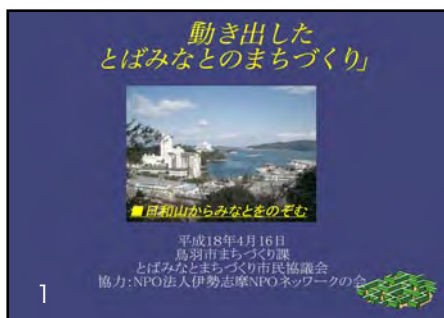
[施策]

- まちづくり交付金事業に対する真剣な取り組み 具体化
- 鳥羽市まちづくりデザイン戦略会議の有効利用 諸項目の位置付けと補強
- 県事業との関係 一石二鳥の相乗効果を狙う

地域選別の時代を生き残れるか。鳥羽は変わらざるを得ない時を迎えている。鳥羽はたくさんの宝を持っている。行政・住民一丸となってそれを活かし切るべきだ。

動き出した とばみなとのまちづくり

岩佐政徳／とばみなとまちづくり推進協議会座長
 世古貢／とばみなとまちづくり推進協議会副座長
 川村透／NPO 法人伊勢志摩 NPO ネットワークの会
 岡村康史／鳥羽市まちづくり課
 西村浩／ワークヴィジョンズ



●川村

この1時間の進行役をさせていただきます、伊勢志摩 NPO ネットワークの会の川村でございます。よろしくお願い致します。

はじめに皆さんに簡単なアンケートをお願いします。次の質問にグーチョキパーで手を上げてください（質問の内容と結果は下表参照。）

【スライド1】

鳥羽のまちづくりについて振り返ってみたいと思います。「動き出したとばみなとのまちづくり」ということで、日岡山から港を見ている写真からはじまります。鳥羽市の投げかけで、市民が参加して専門家と一緒にまちを作っていく、そんな市民の協議会ができあがりました。

【スライド2】

今日の説明全体の概要です。まず、鳥羽港界隈のまちづくりの経緯と、とばみなとまちづくり市民協議会ができたいきさつを振り返ります。そして、今どうなってるの？と、僕たちの活動の話をしていきます。そしてその成果について皆さんにお伝えします。それから、みんなで考えよう鳥羽の未来、ということでこれからの課題について話をします。そして、まとめ。こんな感じでいきたいと思います。

【スライド3】

とばみなとのまちづくり、夜明け前の話から入っていきなと思います。2丁目まちづくりの頃ですね。これは鳥羽市まちづくり課の岡村さんが事

表 グーチョキパーアンケート

質問1 みなさんはどこから来ましたか。	
グー : バリバリの鳥羽市民です	■
チョキ : 生活圏が鳥羽です	■
パー : 鳥羽以外から来ました	■
質問2 このシンポジウムに参加した理由は何ですか。	
グー : まちづくりに興味があって	90
チョキ : パネリストの話が聞きたくて	28
パー : 無理やり動員がかかった	6
質問3 あなたはまちづくりに関わっている方ですか。	
グー : 仕事も忘れて忙しくやっています	30
チョキ : そこそこ。声がかかったら参加します	60
パー : 本当はそっとしておいて欲しい	10
質問4 とばみなとまちづくり市民協議会を知っていますか。	
グー : よく知っている	60
チョキ : 名前くらいは聞いたことがある	45
パー : 何それ？はあ～？	6



務局をつとめられて、大里・本町、(現鳥羽) 2丁目の町の方たちが、頑張って鳥羽市を良くしようということで、協働という言葉もなかった時代に民主体で、自分たちでまちのことを考えようと動き出したことがありました。ただ、色々ないきさつでなかなかうまく結果が出ずに誤解を招くこともあったわけですが、岡村さんどうですか、その当時のお話は？

●岡村

今、鳥羽2丁目に都市計画道路がありますが、以前は大里の飲み屋街の通りで、1戸あたりの宅地が小さい建物が並んでいました。そこで立ち退きなどの問題について、市民の皆さんと一緒に考えていくために、大里と本町の町内から委員さんを出してもらいまして、三重大学の浅野先生にもボランティア的にアドバイスをもらいながらはじめました。3年くらいやったのですが、いろいろな前提条件などが崩れてきたこともあって、挫折してしまいました。

●川村

スライドの下に黄色で書いてあるキーワードを見てください。トップダウンのまちづくりからみんなが関わる協働型のまちづくりへ。これは内藤先生も言われていたように、上から降りてくるのではなく、みんなで関わっていくまちづくりをしていかなければならないね、ということです。これが、2丁目まちづくりの頃から夜明け前のように動き出していたというわけです。

【スライド4】

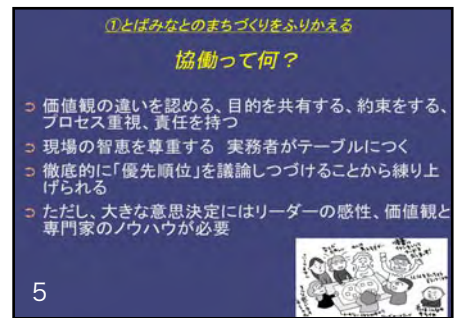
実は、みなとまちづくりには範囲があるんです。鳥羽の駅、それからパールビルのあるマリンタウン界限、カモメの散歩道を通り、近鉄をくぐって岩崎、大里界限、鳥羽小学校を含んでずっと南の方へ行きます。大体廣野邸のあたりまで、そういうアバウトな範囲で考えています。

【スライド5】

協働って何か、ということ少し考えてみたいと思います。価値観の違いを認める、目的を共有する、約束をする、プロセス重視、そして一番大事なのは責任を持つことです。僕らNPOの会で市民ワークショップをやりますと、市民と行政、それから企業も含めて、まるで異文化コミュニケーションのようになることが多いです。「当たり前やこんなこと！」と思っていることほど食い違うということが、市民と一緒に行政が色々な事業をやる時に直面する問題です。そして、現場の知恵を尊重する。そのために、実務者がテーブルにつく、そして徹底的に優先順位を議論し続けることから練り上げられる。ただし、大きな意思決定にはリーダー感性・価値観と、専門家のノウハウが必要です。ただ単に集まって自由に話をして下さい、では、なかなか前には進まない。ビジョンが必要だということです。

【スライド6】


すべてはここからはじまりました。中心市街地活性化、鳥羽の玄関口を何とかしようということで始まったわけです。まちの玄関口の賑わいを取り戻したい、商業の活性化と基盤の整備を一体に進めよう、そしてまちづくり工房21というものができあがりました。また「手づくり工房きらり」は、



①とばみなとのまちづくりをふりかえる

■快適空間とベクトル会議

- ともに伊勢志摩の観光価値を再生する試みのひとつ
- 【快適空間TOBA】
 - ・行動型、市民参加型の鳥羽の玄関口いい感じづくり
- 【ベクトル会議】
 - ・ビジョン、専門家と代表市民が「観光地鳥羽の「景観」を再生する
 - ・だからベクトル、方向性
 - 本来、快適空間とベクトルはひとつであるべき
 - (カモメの散歩道)



7


①とばみなとのまちづくりをふりかえる

■快適空間TOBAって

<http://www.pref.mie.jp/jumins/hp/zigy/kuukan/kuukan.htm>

- まちの玄関口をいい感じにしたい
- 歴史を学ぶ
- 妙慶川をキレイに
 - ・そうじ
 - ・橋をペンキで塗ったり
 - ・フォーラム開催

8 まちなみ水族館 への協力



①とばみなとのまちづくりをふりかえる

■快適空間TOBA 「妙慶川 今と昔」写真展



9

①とばみなとのまちづくりをふりかえる

■快適空間TOBA 「妙慶川 小公園 手入れ



10

①とばみなとのまちづくりをふりかえる

■快適空間TOBA 妙慶川に目を向けてもらうための体験型事業



11

後でパネリストで登壇される水谷伸子さんが中心となって運営しています。

【スライド7】

次の展開です。三重県との協働がはじまったわけですが、「快適空間TOBA」と「べくとる会議」という仕組みが立ち上がりました。どちらも伊勢志摩の観光価値を再生しようという試みの一つでした。まず快適空間TOBAは、行動型であって、市民参加型で鳥羽の玄関口をいい感じにしようという取り組み。もう一つのべくとる会議、これは専門家、市民の代表が、観光地や景観の再生をしよう、だからベクトル、方向性というような名前がついたわけです。本来、快適空間TOBAとベクトル会議は同じメンバーで話をされることが多かったのですが、景観の方向性に関する部分は特に観光地・鳥羽にとって大事だということで、特化した会議体ができたとわけです。その成果としてカモメの散歩道ができました。

【スライド8】

「快適空間TOBA」は、まちの玄関口をいい感じにしたい、歴史を学びたい、妙慶川をきれいにしたいということで、掃除をしたり、相橋をペンキで塗る。あるいは体験型のフォーラムを開催する、それからまちを盛り上げようとかまちなみ水族館に協力するなど色々やってきました。

【スライド9】

それからみなとまちづくりに入っていきます。妙慶川境界は歴史的に大事なところですが、昔のことに非常に詳しい中村真一さんというおじいさんを講師にお迎えしまして、妙慶川の今と昔を振り返る写真展を開きました。ここで快適空間TOBAの委員長である世古さんに思いを語って頂きたいと思います。

●世古

スタートした頃は、ヴィジョンづくりで何回かワークショップを開催しました。快適空間TOBAという新しい名前に変えてスタートした時に、僕も20何年か住んできたまちなのです。改めてまちを見直そうということで、何回もたくさんの人とまちなかを歩きました。その結果非常に汚いところがたくさんありましたので、お金のない中で、とりあえずできるところからきれいにしようと、橋の欄干にペンキを塗ったり、花壇を作るなど、いろいろやってきました。

●川村

【スライド10】

奥田家具さんの隣に三角の公園があります。ここを綺麗にするところから始めようということで、ハマナデシコを植えたり、草を刈ったり、コツコツしたことから動きました。

【スライド11】

妙慶川の水がどれだけ汚いかということを経験してもらっています。このような体験型の事業もやりました。

【スライド 12】

これはカモメの散歩道ですね。デザインの力によって整備の付加価値が高められています。グッドデザイン賞も受賞しています。これが協働型の公共事業の夜明け前のチャレンジでした。商工会議所の青年部を中心に、それから伊勢志摩 NPO ネットワークの会もサポートをしまして、3回の市民ワークショップを開きました。その議論をベースにしてべくとる会議で、何回でしょうか、ものすごくたくさん議論をされたんですかね？

●岩佐

多分半年くらいの間に三十数回ぐらい議論したと思います。毎週会議をしているような、そんな感覚でした。このワークショップではいろんな意見が出ました。例えば、温泉みたいにお風呂につかって海が眺められるとか、そんな意見まで出ましたけど、最終的には、この場所は海が気持ちよく見られる場所、そういうふうにしようということが決まって、西村さんのデザインで本当にいい場所ができたように思います。

それから県と住民との協働ということで、住民が意見を出す、その代わりというは何ですが、住民も責任を持って何かできることをしよう、ということでべくとる会議では二人一組で一週間に一度掃除をしています。先週、私はサボってしまいました。すみません。この場をお借りしてお詫びを申し上げます。

そんなことで、みなさんお分かりと思いますが、行ってみるととても綺麗なところになっています。

●川村

カモメの散歩道の設計に携われたデザイナーの西村さんにエピソードを語ってもらいましょう。

●西村

今、三十数回、半年くらいに会議をやった、3回のワークショップをやったという話がありましたけど、正直に言いますと、僕が最初頼まれたのは、「最初一回だけ絵を描いてきてください」ということだったんです。「それだけのの？」と思いながら絵を描いて持ってきたら、なんと「次からも来て下さい」、それで三十何回来ることになってしまったという、「まあ、なんて人使いの荒い町だなあ」というのが最初の感想でした（笑）。他の都市の視察にも行ったり、皆さんにも色々学んでもらいました。僕がお手伝いしましたが、みんなの意見を出しあい、協力したので賞をもらえたんだと思います。

掃除の話ですが、今日もやってもらっています。実は議論の途中にですね、「掃除は行政の役割だ」「いや市民が手伝わんことには木を植えられん」とか喧嘩を始めたんですね。それで僕は頭にきて「木を抜きます」って言いました。そしたらですね、市民の皆さんがもう一回話し合いをして「自分たちでできることはやります。」ということで、今も毎週担当を決めて掃除をしてもらっています。僕は、デザインがどうかという前に、そういうところが一番成果として大きかったことだと思っています。是非それは続けてもらって仲間を増やして欲しいなと思います。




①とばみなとのまちづくりをふりかえる
■エコミュージアムなど会議所のまちづくり



13

②みなとまちづくり市民協議会ができたいきさつ
■きっかけその ①


- まちづくりの風通しを良くしたい
- 今までのみなとまちづくりの取組みをまとめて進めていける公式の場が必要



14

②みなとまちづくり市民協議会ができたいきさつ
■きっかけその ②

- 鳥羽の玄関口をなんとかするための「基盤」づくりが必要
- 市民参加で専門家のノウハウを生かす、統一された場所づくり



15


②みなとまちづくり市民協議会ができたいきさつ
■まちづくり交付金事業

まちづくり交付金事業とは

- ・歴史・文化・自然環境等を活かした個性あるまちづくり
- ・国に認められた整備計画(都市再生整備計画)について、国から交付金が出る

都市再生整備計画 岩崎・佐田浜周辺地区

- ◇ 目標
 - 伊勢と志摩の国境の川、妙慶川を中心とする歴史回遊軸の整備
 - 離島文化の拠点となる新たな港づくりの整備
- ◇ 区域 佐田浜～鳥羽4丁目
- ◇ 期間 H17～H21 5年間



16

●川村

まちのために協力するのめっけこう大変なんですね。実際整備をするときには企業にも協力をもらわないといけないし、そのような関係で情報を外に出すときには、難しい面もあったかと想像します。市民の中でもヤッチャモッチャありまして、西村先生も飲んでいてギアギア言われたこともあったようですが、でもやっぱりできた成果は凄いものなんです。喧々譁々やっただけのだけのことはあるなあ、と前向きに捉えていったらいいと考えています。

【スライド 13】

この界限では、大里にみなとまちづくり文学館ができました。これは商工会議所のエコミュージアムという事業によるものです。まち全体を博物館にしようと、そういう試みも少しずつ少しずつ動いていくわけです。

【スライド 14】

気がつくともちづくりの会議体があっちもこっちも立ち上がってきました。ベクトル会議だ、快適空間だ、まちづくり工房だといっても、なかなか話が通じない。もう少し風通しを良くしたい。それなら今までのまちづくりの取組みをまとめる公式な場所が要るのではないかということになってきました。

【スライド 15】

特に鳥羽の玄関口を何とか良くするための基盤づくりがある。市民が参加して、なおかつ専門家のノウハウも活かせるような統一された場所があるということです。

【スライド 16】

市の方ではまちづくりの事業を進めるために、国から補助金をもらうメニューに応募しました。それが先ほども話に上りました「まちづくり交付金事業」ですね。これについて解説をお願いします。

●岡村

先ほど篠原先生、内藤先生もおっしゃられましたが、国が上からまちづくりのやりかたを押し付けるのではなく、地方が計画を考え、それを国が認めてその整備について国から補助金を出しましょうというのが「まちづくり交付金事業」です。歴史、文化、自然環境などの地域の個性を活かしたまちづくりをしようとしても、今までだったら道路なら道路だけ整備するとか、川なら川だけ整備するという形でしかできませんでした。しかし「まちづくり交付金事業」では道路や川を整備し、案内板を立て、その他いろんなことをやって、こんなまちにしていきたいんですよという計画を市町村が作ります。これが国に認められると、国から交付金がもらえます。その計画が「都市再生整備計画」です。鳥羽では中心市街地をよくするために、具体的な目標を「伊勢と志摩の国ざかいの川、妙慶川を中心とする歴史回遊軸の整備」と、「(マリンタウンを含めて)離島文化の拠点となるみなとづくりの整備」ということで、区域を佐田浜から四丁目の辺りまでの約110haを対象にして計画を立てています。期間は平成17年度から平成

21年度までの5カ年です。

●川村

ということですが、なんか正式な文言が出てくると難しいですね（笑）。ちょっとお経みたいですが、後で解説しますのでご安心下さい。

【スライド 17】

これが公式の範囲ですが、ちょっと堅苦しいので、略地図を作りました。

【スライド 18】

「まちづくり交付金事業」の範囲は駅、パールビル界隈、日和山も含めた鳥羽の町を含み、だいたい廣野邸のあたりまで、つまり鳥羽の玄関口です。この地区をよくしようということです。

【スライド 19】

そんなきっかけで「みなとまちづくり市民協議会」ができたわけです。僕たち伊勢志摩 NPO ネットワークの会は、みんなのまちへの思いが活かせるようなまちづくりをしたい、そんなようなミッションを持って活動しています。具体的には公共事業、つまりまちの基盤整備こそ協働による計画段階からメンテまでの取り組みが必要です。ほんとの根っここのところからみんなで作っていく、僕たちはそういうことをサポートしたい。そういうことで皆さんと一緒にやろうということになりました。

【スライド 20】

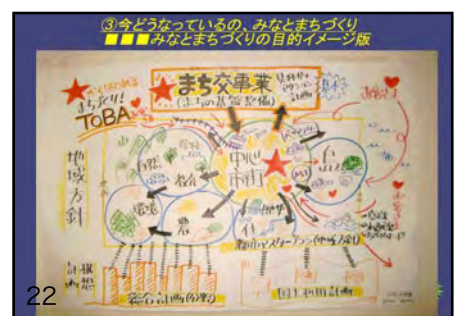
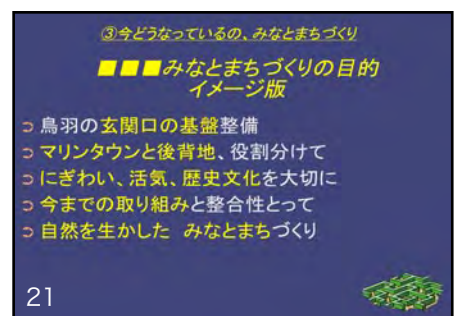
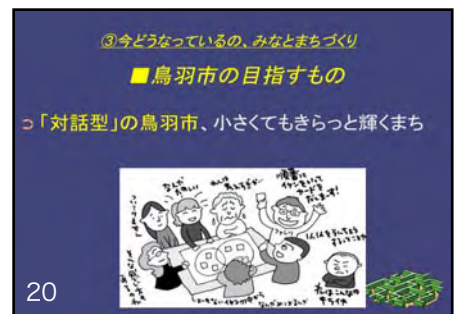
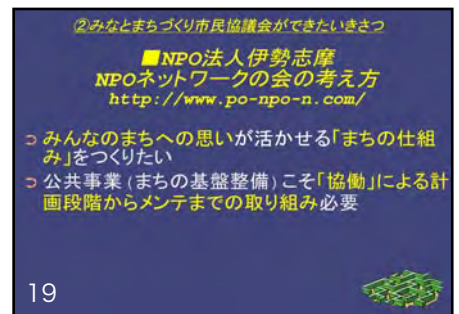
木田市長が「対話型のまちを作っていきたい、小さくてもキラッと輝くまちを作って行きたい」とたびたび言われていますが、その方向性とも一致していました。

【スライド 21】

みなとまちづくりの目的は5つに整理できます。まず、鳥羽の玄関口の基盤整備をする。マリントウンとその背後の町の役割を分けて考えていく。賑わい、活気、歴史文化を大切にしていちまちを盛り上げていく。さらに、今までの取り組みときちんと整合性をとってまちづくりを進める。鳥羽らしく自然を生かした港、という港のまちづくりを目指す。この五つの目的で鳥羽みなとまちづくり市民協議会は動いています。

【スライド 22】


これは図解です。鳥羽市の玄関口、中心市街地。観光客が鳥羽に来たときにまず上がってもらうところですね。玄関口がきれいになっていないと、鳥羽の宝である離島にも人が行ってくれません。南鳥羽にも足を運んでくれません。だからまず、他の地区にはちょっと申し訳ないけれども、この玄関口をきれいに、いい感じにすることから始めさせてくれませんか？ということで話をしてきました。そのためのいいメニューがまちづくり交付金事業だったわけです。



③今どうなっているの、みなとまちづくり
■みなとまちづくり、どこまで進んでいるか

- 昨年度、みんなで話し合った内容は、「大体これくらいの大きなみなとまちづくりの方向性」はまあまあ共有できるよねえ、っていう
- グランドデザインのひよこ、をつくることです。
- そのために、まちあるきでどうなっているのかを見て歩き、デザイナーの先生や歴史文化の先生の思いとともに、おおまかな「ゾーン」別にどうなったらイイまちに、活気があってすてきなまちになるのかを、みんなの実感にもとづいた言葉にして共有するところからはじめよう。
- そしてその大切なことばたち=思いを育てていこうってことをやりました。

23



③今どうなっているの、みなとまちづくり
■みなとまちづくり、どこまで進んでいるか

第1回	H17.9.26	オリエンテーション
第2回	H17.10.18	まちづくりものがたり ~「まち交事業」を理解して、今までの取り組みを振り返ろう~
第3回	H17.11.8	まちづくりものがたり 2 ~ひとりひとりの取り組みを振り返ろう~
第4回	H17.11.29	まちづくりものがたり 3 ~まちづくりの物語~
第5回	H17.12.11	まちづくりものがたり 4 ~まちづくりの物語~
第6回	H18.1.15	まちづくりものがたり 5 ~まちづくりの物語~
第7回	H18.2.15	まちづくりものがたり 6 ~まちづくりの物語~
第8回	H18.3.17	まちづくりものがたり 7 ~まちづくりの物語~

24

③今どうなっているの、みなとまちづくり
■みなとまちづくり、どこまで進んでいるか

第1回 H17.9.26
オリエンテーション




25

③今どうなっているの、みなとまちづくり
■みなとまちづくり、どこまで進んでいるか

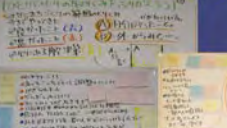

第2回 H17.10.18
まちづくりものがたり
~「まち交事業」を理解して、今までの取り組みを振り返ろう~




26

③今どうなっているの、みなとまちづくり
■みなとまちづくり、どこまで進んでいるか

第3回 H17.11.8
まちづくりものがたり 2
~ひとりひとりの取り組みを振り返ろう~

27

【スライド 23】

ということで、鳥羽みなとまちづくり市民協議会は「これはだいたい共有できるよね」という大まかなみなとまちづくりの方向性、グランドデザインのひよこづくりに取り組んできました。そのためにいろんな人にかかわってもらって、まちを歩いて、その大まかなゾーン別に「どんな風にやったらええまちになるんやろな?」、「活気があってステキなまちになるんやろな?」ということをしてできるだけみんなの実感に基づいた言葉にして共有することから始めてました。これからその大切な思いを育てていこう、そんな感じで進んでいきました。

【スライド 24】

鳥羽みなとまちづくり市民協議会は今までに7回開催しています(24ページ参照)。三重大学の浅野先生にはアドバイザーとして参画していただいています。第1回「オリエンテーション」、第2回「まち交事業を理解して今までの取り組みを振り返る、3回目が「まちづくりの物語~一人一人を振り返ってよかったところ、課題のところを考えてみよう」、そして第4回「実際にまちを歩いてみよう。そしてどんな感じで仕上がりにつつあるのか、みんなで確かめてみよう」。第5回「鳥羽みなとまちが良くなる理想像を描こう」。第6回は「このエリアがこんな感じで仕上がれば最高よというテーマ作り」。そして第7回は「エリアごとのテーマをまとめよう」こんな感じで進めてきました。

【スライド 25】

これは第1回の様子です。木田市長がノーネクタイで最初のご挨拶をされてるところです。隣のむさくるしいゴワゴワ頭が僕なんですけども。こんなふうが一番初めにしっかりと、何のためにやるのか、ここで議論したことを鳥羽市と一緒にどうやって実現していくのか、そういう目的の確認と約束をしました。これがオリエンテーションです。これまではいろいろな風通しの悪い条件もあったわけですから、いろんな誤解が蔓延していました。それを解くのが大変だったんですよ。中野課長はほんとに叩かれ役になっていただきまして、それこそ遊園地の鬼さんが立ってるところにみんながボールをぶつけるみたいに「あれはどうなとんのね!?!」「これは今までこうやったやんか!?!」「なんでこうなのね!?!」というのを、とにかくまちづくり課さんはがんばって、とにかくみんな受け止めることから始めよう、それでみんなにテーブルについてもらおう、そんな感じで始まりました。

【スライド 26】

第2回は「まちづくりの物語」でした。今日これまでに説明したようなことをみんなに分かっていただいた上で、今までの取り組みを振り返りました。まちづくり工房代表の奥田徹さん、べくとる会議の代表の岩佐さん。それから空間快適の委員長の世古さんと、三人からそれぞれの活動について説明していただきました。

【スライド 27】

その上で皆さんにいろんな思いを出していただきました。そこでは、「鳥羽

はいいものがありすぎて、あれもこれもオンリー1だらけ。だからかえてややこしいことになってるんじゃないか？恵まれすぎていて絞り込みができないんじゃないか？」という話が出ました。それから「まちにランド・デザインがないやないか！」という話がいっぱい出てきました。でも実はランドデザインがないわけではなくて、実は共有されていなかったり、納得していなかったり、また、ただ単に知らなかったり誤解をしていたりしていたことがわかってきました。ここでも課長は叩かれ役に徹していただきまして、火がぼうぼう吹き上げるようなみんなの思いを受け止めていただいて、前に進んで行きました。

【スライド 28】

実際にまち歩きもやりました。西村さんと、歴史の専門家の矢野和之さんとまちを歩きました。大山祇神社から城山を通過して水族館、カモメの散歩道、それからきらり、妙慶川界隈、みなとまち文学館まで歩いていきました。矢野さんは、これ以上歴史文化にとって大切な部分が失われると本当に鳥羽はダメになってしまうという瀬戸際の状態だという話をされました。西村さんは、まちに必要なのは鬼のようなびっくりするデザインではなく、生活感のある日常のデザインが大事だよ、という話をされました。

【スライド 29】

次に、みなとまち鳥羽が良くなる理想像を描こうとということで、いろいろなアイデアを出していきました。

【スライド 30】

それから「このエリアがこんな感じに仕上がれば最高よ」というテーマ作りに取り組みました。いろんな具体的なアイデアが出てきて、大きな方向性、大きなエリア分けの方針ができてきました。その辺について座長の岩佐さん説明をお願いします。

●岩佐

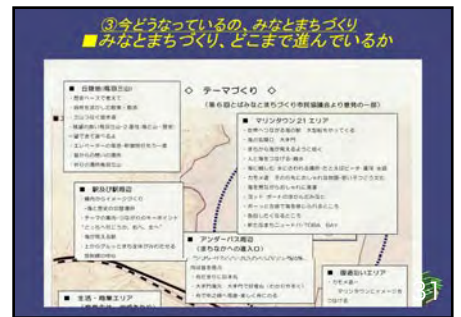
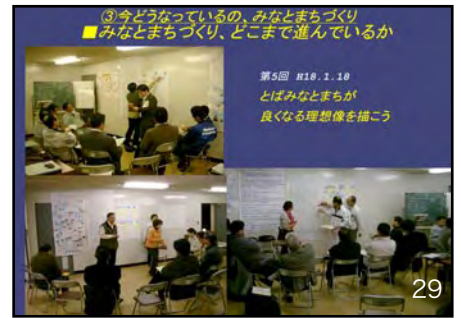
近鉄の線路を境にして海側、山側にエリアを分けました。海側のほうは新しいまちであるということで近代的なイメージでやっていけばどうか。それから、山側の方は歴史的なものを大事にしながら古い感じで仕上げたらどうかというような雰囲気になっていました。

●川村

そんな感じで、ものすごく雑駁なんですけれども、新しいモダンな港。線路をくぐって鳥羽の歴史、その文化の物語に誘われていくというふうな、そんな大まかなストーリーがみんなの頭に共有されたと思います。

【スライド 31】

鳥羽三山、日和山のところは、三山をつないでゆく遊歩道みたいなものがあたらどうか？眺望の良い三山。海と山の歴史を感じさせるエリアです。また、駅の周辺では、構内から海と歴史を切り替えるジャンクションみたいな感じなんだと。そこでそれぞれエリアの物語がはっきり分かるような感じがいいんじゃないかな。マリントウン 21 は世界へつながっていく海





32

の駅。海の玄関口の大手門、カモメの散歩道。その先におしゃれな物語があったらどうか?とかそんな話ですね。アンダーパスを通過してまちなかに入って行く。舟溜まりに日本丸があったらいいなあとか、大手門をちゃんと復元したらいいなあとか。そんなような話が出ていました。

【スライド 32】

そのほか具体的な思いが生の言葉になってどんどん出されてくるようになりました。



33

【スライド 33】

短い期間に駆け足で市民協議会を進めてきましたので、なるだけみんなにわかしてもらおうということで、手作り工房きりりとハローに場所を借りて議論の成果を張り出して皆さんに見てもらいました。期間は短かったですが、みんなの意見を書いていただくスペースも作りました。



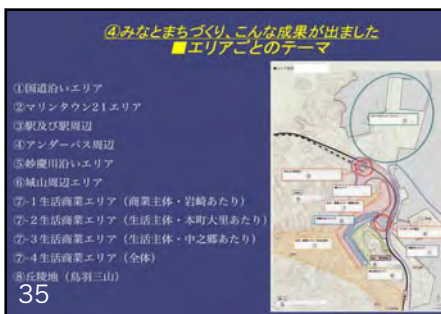
34

【スライド 34】

第7回はこの3月17日に開きました。鳥羽みなとまち、このエリアはこんな感じに仕上げれば最高よ、ということで、エリアごとのテーマを、まちづくりの骨格としてみんなが共有できるように練り上げて行きました。今までのテーマ案の中から、「どれが大事なねん?」という話をしていきました。

【スライド 35】

ということで、エリアごとの骨格テーマができました。



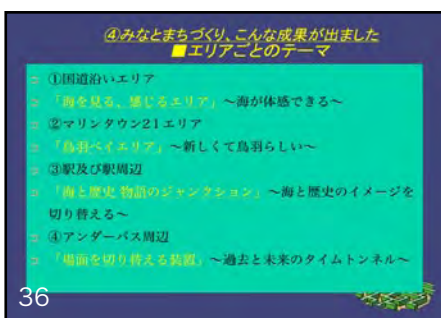
35

【スライド 36】

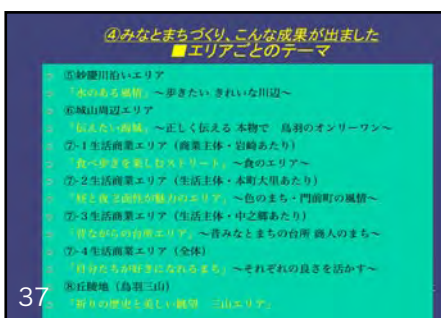
まず、国道沿いエリア。ここは「海を見る・感じる」。海が体感できるというエリア。マリンタウン21は「鳥羽ベイエリア」。新しく鳥羽らしい、そんなようなイメージ。駅および駅周辺は「海と歴史、物語のジャンクション」。海と歴史のイメージを切り替える。それからアンダーパス周辺は「場面を切り替える装置。過去と未来のタイムトンネル」。こんなようなイメージになってきました。

【スライド 37】

妙慶川沿いエリアは、「水のある風情ある歩きたいきれいな川辺」。城山付近は、「伝えたい海城。正しく伝える本物で鳥羽のオンリー1」。生活商業エリアの岩崎界限は「食べ歩きを楽しむストリート、食のエリア」。そして、本町・大里あたりは、「昼と夜、二面性が魅力のエリア。色のまち。門前町の風情」けっこう色っぽいぞという話が出てきました。そして、中之郷のあたりは「昔ながらの台所エリア。昔みなとまちの台所だった商人のまち」。それから全体に、自分たちが好きになれるまちがいいんだ、それぞれの良さを活かしていくんだ、という思いが練り上げられてきました。最後に「祈りの歴史と美しい眺望。三山エリア」という感じですね。こうやってまとめると結構簡単そうに見えるんですけども、いろんな言葉の中から練り上げてくるというのは結構大変でした。この辺について岩佐座長、何か言っておきたいことはありませんか。



36



37

●岩佐

最後のキーワードにたどり着くまでに、ランドデザインがないのはどうやって決めていくんだとか、そういった意見も出ましたけれども、小さいアイデアをまとめて仕分けをしていくと、こんな言葉でそれぞれのエリアが表現できるようになりました。6回目から7回目に行ったときに、いい言葉でまとまったな、すっと落ちたなというような感覚を持って、すごく気持ちがよかったです。

【スライド 38】

●川村

さて、みなとまちづくりの具体的な事業も動いています。これは大里のポケットパーク。みなとまちづくり文学館の横にみんなが憩える場所をつくらうということで、コンセプトづくりの根っここのところからみんなで乗り出していきまして、大里町と本町の方を中心に話を繰り返していきました。

【スライド 39】

その結果がこんなイメージなんですね。デザイン・コンセプトについて、西村さんご説明をお願いします。

●西村

まちの方とうちのスタッフの西村渉が話しながら作り上げていきました。基本的には町屋のイメージを引き継ぎながら、市民の方々が日常的に気軽に集まっていたりするようなポケットパークにしようということで、もうすぐ出来上がると思います。

【スライド 40】

●川村

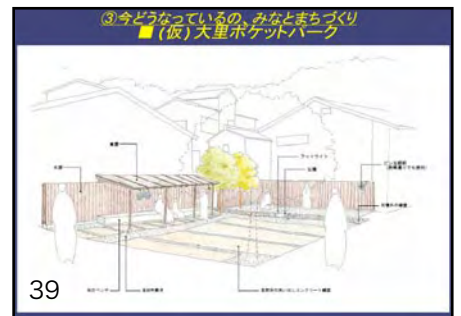
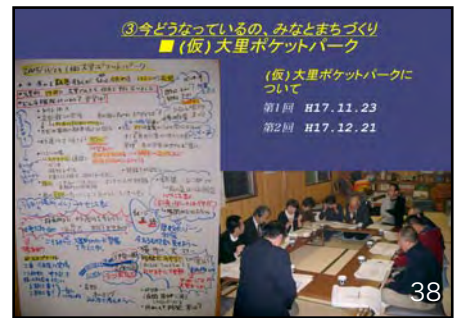
なんかパツとかアツとかいう間にできたように見えるんですけども、何回も何回も議論を重ねた結果決まったものなんですね。こんな感じで大里ポケットパークの整備もみなとまちづくりの一つとして進んでいます。

【スライド 41】

こちらはこれからなんですけれども、妙慶川の遊歩道整備について考えていこう、ということになりました。これもリトル西村先生。こちらが西村先生で、もう一方スタッフの方で西村先生という方がみえるんですけども、模型まで作っていただきまして、二回まちに出張って行って話をしました。それから歴史文化の専門家の難波さんと、さっきも登場した中村真一さんのところに勉強に行きました。ほかのまちの行事と重なって人数は少なかったんですけども、思い入れのある方が駆けつけてくださいました。

【スライド 42】

これがそのイメージ図ですね。水辺をきれいに歩けるようにしようと。でも、やっぱり「第一臭いやん」という話が出てきましたね。でもそれは行政だけでは無理なんですよね。僕たちはせっかくきれいにしたんだから、みんなが汚いものを流さないようにできないかな？ということを考えています。





【スライド 43】

本当に大雑把にみなとまちづくりの流れをみなさんに伝えてきました。鳥羽市でもホームページで情報公開をしているんですね。

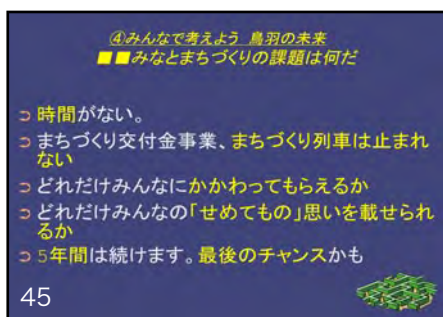
●岡村

はい。市民協議会を頻繁にやっていてなかなかホームページをきちんと作るところまで行ってなくて申し訳ないです。まずは窓口だけ作らせてもらって、内容はまだまだ不足していますが、これからなるべく充実させていこうと思います。ひとりでも多くの人にホームページを見ていただいて、まちづくりに関わってってもらえたら、と思っています。



●川村

ということで、資料は随時これから載っていくそうです。ただ、みなとまちづくり協議会は月に一回これだけのことを進んできたわけで、情報公開がどうしても後回しになってしまったところがあります。まちづくり交付金事業は5年の間に無理にでも成果を出さないといけない。まちづくり列車は無理やり走ってしまうわけなんです。そこにできるだけみんなの思いを乗せていかなければならない。でも、みんなが乗らなくても終点まで走ってってしまうわけですよ。僕は間に立ってそこをできるだけ調整できないかと努力しています。遅くできるところは課長に無理言いまして、遅くしていただいているんです。でも市民と行政というのは足の速さが全然違うので調整は非常に難しいです。



【スライド 44】

そこで、速報性のためにまちづくりのライブレポートのブログをNPOの会の文責で立ち上げています。とばみなとまちづくり市民協議会の活動速報をできる限り生の言葉で、載せています。まだちょっとアクセスも少なくいのでこの機会にのぞいてみてください。実は同じように鳥羽小学校のブログも立ち上げているんですけども、そちらのほうはこれの3倍も4倍ものアクセス数があるので、緊急の課題についてはやはり皆さんも関心が高いんですね。でも、みなとまちづくりのようにスパンの長いものも実はすごく大事です。

【スライド 45】

これからのことです。みんなで考えよう、鳥羽の未来。みなとまちづくりの課題は何だ？これは本当に時間がないんですね。市民感覚から言うと「時間がないなんてどういうことね？5年もあるやないか？」という感覚なんですけども、事業を組み立てていく立場の行政の方と一緒に話をしていると、本当にまちづくり交付金事業、まちづくり列車は止まらない、止まらない。もう、ゴーゴーといって走っているんです。「ごめん、みんなちょっと飛び乗って！」といってるのが今の状況なんです。だからどれだけみんなの「せめてこれくらいはやるよ」というせめてもの思いを乗せられるのか、これがこれからの課題です。ともかく5年間は事業の枠が確保されています。5年間は続けます。でも、内藤先生がおっしゃったように、大きな事業が鳥羽に来るのはこれが本当に最後かもしれません。この5年間がものすごく大事です。

【スライド 46】

これからの予定について、岡村さんから説明してもらいましょう。

●岡村

まずこれからやっていきたいと思っていることは、先ほど紹介のあったエリア別のテーマを一人でも多くの人に知ってもらい、広く意見を聞く機会を設けたいと考えています。その結果でき上がったテーマに沿って、具体的にどんなことをやっていこうかということ、専門家にも入ってもらって一緒に考えていきたいと思っています。また今年度は大黒橋や妙慶川沿いの遊歩道も実際工事にかかってきますので、その具体的な内容についても一緒に相談していきたいと考えています。それからマリンタウン 21 の全体的な土地利用計画の案についても協議会でも意見を聞きたいと考えています。

ほかにも昨年度行った石垣や家などの歴史遺産の調査の結果を皆さんに聞いていただく機会を設けて、一体何が大事なのかというところを皆さんに知ってもらった上で、まち交事業の計画をもう一度考えていきたいと思えます。例えば内藤先生も言われてました廣野邸の保存活用、それから小浜に住んでいた伊良子清白が戦争の疎開で大台町のほうへ移った、その家をまた移築しようかというようなこともあります。日和山に見つかった中世の石垣をどうまちづくりに活用していくのか。鳥羽小学校の移転跡地をどう活用していくのか。そのあたりを考えていきたいと思っています。

●川村

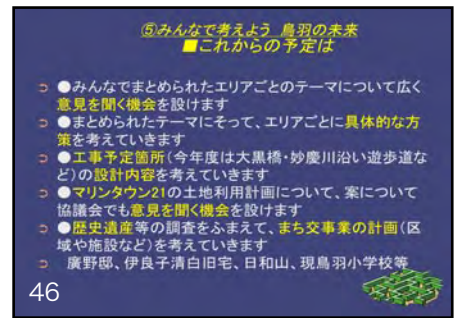
べらべら早口でいかなければならないくらい課題が山積みになっている(笑)。やらなきゃならない事業、しかも鳥羽の未来を左右するようなことが目白押しになっているのが実情です。三重大大学の浅野先生が、鳥羽市は、例えば伊勢市と比べると、これだけ人口規模の小さいまちなのに、伊勢市と同じか、もしかしたらそれ以上の数の事業を切り回している。それは、住んでいる人にはわからないかもしれないけれども、とんでもなくすごいことなんですよ、と言われました。伊勢の人たちに言わせると、あんたらよくやってるなど。どこいっても同じような人がでてくるかもしれないけれども、それでもこれだけの事業を一生懸命切り回しているというのはすごいじゃないかと言われました。

【スライド 47】

そろそろまとめに入っていきます。座長さん、副座長さん、一言ずつ思いを語っていただいて、最後に西村さんに締めていただきたいと思います。

●岩佐

テーマを決めてランドデザインを作っていくというような、そんな活動をやってきたわけですが、作っただけでは本当に意味がなくて、たくさんの方々を知ってもらい理解をしてもらうということに重きをおいて協議会を担当していきたいと思っています。それから例えば橋の架け替えだとか、そういった行政の事業について意見をだしていくわけですが、それだけではわれわれが考えているようなまちは当然できません。例えば民間の建物にも統一的なイメージを反映していくとか、またソフト的にも対応してい





48

くなど、これから住民のみなさんの対応が必要になっていくと思いますのでよろしくをお願いします。それから、当然一年や二年で変わるものではありませんので、長く思いを持ち続けていくということで、5年間というまち交事業の区切りが過ぎてからでも、まちづくりをやっていくんだという気持ちを失わないようにしてやっていこうと思います。みなさんご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

●世古

本当にこれまでにない行政の動きを感じています。これに出来るべく頑張っていきたいと思ひますし、住民の力も必要になってくると思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。これまでは計画が市民の目に触れないことばかりだったんですけれども、これからはどんどん公開してみなさんの意見をいただけるような機会をたくさん作っていきたくて考えております。



49

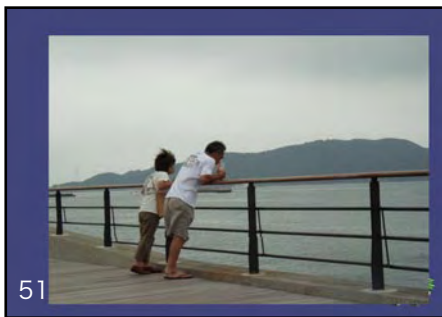
●川村

われわれ伊勢志摩 NPO ネットワークの会は、協働の仕組みを作ることにコミットして動いています。それがひいては NPO の息づくまちになるんだと考えて、鳥羽市それから伊勢市、志摩市、あるいは三重県との協働を進めています。そのために市民、行政、企業の間につってコーディネーター役をする中間支援という役割を担って活動している次第です。今日はお忙しくて参加できなかった浅野先生からの伝言を伝えます。浅野先生は、公共事業の質を高めるには二つの側面があるとおっしゃっています。一つはデザイン、景観、付加価値を高めていく、これは専門家の領分です。もう一つは、できるだけ健全なプロセスでみんなの思いを乗せていく。行政、企業、みんなの資源をうまく活用して協働するプロセス。この二つの側面がうまくかみ合ってこそ、よいまちが生まれます。公共事業を本当の意味で市民の手にするためには、みんなが信頼関係をもってやらなければならない。鳥羽市はそのスタートラインに立ちました。という伝言をいただいております。

それでは最後に西村さんに締めていただきますしょう。



50



51

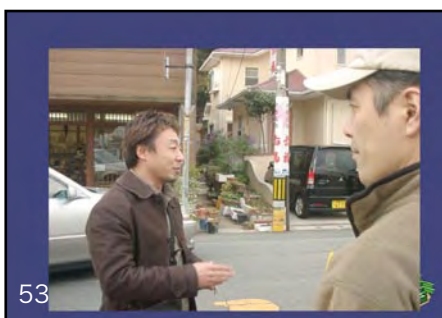
【スライド 48-58】

●西村

鳥羽に来てからもう5年目にはいります。プロムナードに関わった最初の頃から比べると、みなさんずっと住まわれていると気づかないかもしれないけれど、まちも少しずつだいぶ変わってきたし、こうした市民協議会ができたということは、5年前から比べると全然ちがう状況になってきたと思ひます。専門家としてということなので申し上げますけれども、僕らの専門家としての役割は、市民の皆さんや行政の意見を聞き、まちの状況を見ながら、最終的にいいデザインを形として作りあげることです。ただ、もうひとつ僕らの役割というのがあります。先ほど岩佐さんもおっしゃったように、まちづくりは一年や二年でできあがるものではありません。そこでキーになるのは、住んでいる方々がどれだけまちを大切に思っているかということだと僕は思ひます。最初のべくとる会議にかかわったころから一生懸命お話し、皆さんと議論をしまして、今ではカモメの散歩道は市民の皆さん自身が清掃して下さる。その気持ちが設計者としては一番う



52



53

れしい。そういう方々が増えてくると、実はまちづくりなんてしなくても自然とまちはよくなっていく。僕はまちづくりという言葉がなくなるのが、まちの本当のありかたじゃないかと思っています。市民協議会が始まり、関わる人の数がこれからもっと増えてくれば、きっと行政が何もしなくても、専門家が何もしなくてもまちはよくなっていくんじゃないか。そこを目指してこれから皆さんに頑張っていたきたいと思います。

●川村

鳥羽市のスタッフの方も本当に夜遅くまでがんばってくれています。一緒にやっていると本当によくわかります。何かというと市民は、「もう行政があれやから…」、「外からきた専門家に何がわかるんね」、どうしてもそう思いがちです。でも鳥羽市に関わってくれている方たちは、本当にみんな鳥羽市のために、ものすごい労力をつかって、思い入れをかけてやってくれているということが、一緒にやっていると必ずわかります。それを活かすも殺すも住んでいる人次第、僕たち次第です。それを踏まえて皆で責任ある、対話のできる鳥羽市にしていきたいと考えています。

長くなりましたけれども、以上でみなとまちづくり市民協議会の発表を終わります。長時間ありがとうございました。



(発表)動き出した とばみなとのまちづくり

平成18年4月16日
とばみなとまちづくり市民協議会
鳥羽市まちづくり課

◇平成17年度 とばみなとまちづくり市民協議会経過

第1回 H17.9.26 オリエンテーション

- ・ 今までの取組みと現状
- ・ 約束の共有と合意
- ・ 長期ビジョンを語ろうトーク Vol.1

第2回 H17.10.18 まちづくりものがたり
～「まち交事業」を理解して、今までの取組みを振り返ろう～

- ・ 大前提をしっかりとしよう(再)
- ・ 早分かり「まち交事業」の全容
- ・ 三つの流れを大きく振り返ろう

第3回 H17.11.8 まちづくりものがたり2
～ひとりひとりの取組みを振り返ろう
良かったところ、課題のところ～

- ・ 「まち交事業」関連あれこれ簡単に報告
- ・ ひとりひとりの取組みを振り返ろう
- ・ 「まち交事業」の実際とさしせまった課題

第4回 H17.11.27 まちを歩いて振り返ろう
～鳥羽の玄関口、今どんな感じで仕上がりがつつあるの?～

- ・ まちを歩いて振り返ろう
- ・ まちの物語を聞いてみよう
- ・ まちの点検地図をつくろう

第5回 H18.1.18 とばみなとまちが良くなる理想像を描こう

- ・ とばみなとまちが良くなる理想像を描こう

第6回 H18.2.13 とばみなとまち
このエリアがこんな感じに仕上がれば最高よ
～テーマづくり～

- ・ とばみなとまちが良くなる理想像を描こう 2

第7回 H18.3.17 とばみなとまち
このエリアがこんな感じに仕上がれば最高よ
～エリアごとのテーマをみんなでまとめよう～

- ・ エリアごとのテーマをみんなでまとめよう

とばみなとまちづくり市民協議会 ☆ 目的 ☆

長期的には、

海陸交通の結節点であり、中心的観光施設の立地する「鳥羽の玄関口」、佐田浜から4丁目にかけての鳥羽駅周辺市街地の『まちづくり(基盤施設の整備等)プラン』をつくり、実現していこう。

具体的には、

プランの実現に向け、この地域の骨格となる基盤施設の整備を受け持つ「まちづくり交付金事業」が平成21年度までの5カ年計画としてスタートしており、その条件の範囲内で事業内容を検討する。

鳥羽マリンタウン21事業とその背後地の活用について、既成市街地との役割分担を考慮して、そのプランを検討する。

景観法の活用を視野に入れた、一体的な景観の方向性について検討する。

こんなプランにしていこう

・鳥羽の玄関口にふさわしいプラン

・まちの賑わいをとりもどし、活力と魅力を高め、生活者が誇りをもつことができる、また観光地として再生していくためのプラン

・地域の持つ歴史・文化・自然環境等の特性を活かしたプラン

・この地域において、これまでのさまざまな取り組みを風通しよく整理し直し、それらと整合性のとれたプラン

みんなで話し合う基本方針

・美しい自然との調和をはかりつつ、先人から引き継いだ財産を、次世代に引き継いでいくことを念頭におき、プランを検討する。

・参画した委員はすべて、それぞれの立場を超え、鳥羽のまちにとって何が一番良いかという視点に立って検討する。

・さまざまな主体が一同に会して、お互いの立場を認め合い、連携し、協働のスタンスを尊重して検討する。

・ここで合意されたことを実現するために、みんなで後押ししよう。

・まちづくりに関する必要な情報は、個人情報等の制限のあるものを除き、すべて提供される。

鳥羽市が約束できること

・とばみなとまちづくり市民協議会において、合意された事項については、最大限に尊重して取り上げます。

・とばみなとまちづくり市民協議会において、不必要と合意された事項は、プランに組み込みません。

・少なくとも5年間は継続し、まちづくり交付金事業等により現場整備の成果を出していきます。

まちづくりニュース

□ エリアごとのテーマ

「とばみなとまち このエリアが
こんな感じに仕上がれば最高よ」
みんなでまとめました



3 月 17 日、中央公民館で、第 7 回の「とばみなとまちづくり市民協議会」を開催しました。

これまでの会議で出された意見を、全体で話し合いながら、骨格テーマ・コンセプト(具体的)、手段・方法に仕分けて、エリアごとのテーマをみんなでまとめていきました。(裏に概要をあげてあります)

これまでの振り返りから始まり、専門家も交えてのまち歩きで現地を確かめ、とばみなとまちが良くなる理想像を話し合ってきた成果として、エリアごとのテーマがちょっとまとまってきました。

これをベースにして、参加されていない方にも意見を聞かせていただく機会を設け、また協議会の活動をもっとみなさんに知っていただけるように努めて、ひとりでも多くの人にテーマがみんなの思いとして共有され「自分たちが好きになれるまち」に向かって施設の整備を進めていきたいと考えています。

また、協議会の参加率も低くなってきていることから、アンケートをとるなどして、今後の協議会の進め方などについても検討していきたいと考えています。

□ 妙慶川沿いの遊歩道

「妙慶川の遊歩道整備について考えよう」
～第 1 回 3 月 10 日・第 2 回 3 月 23 日～

昔の妙慶川は
もっともっと広がった

NTT 駐車場角あたりまであります。舟もいっぱい浮かんでいました。

右の写真(地元の古老から借用)のように、昔の妙慶川はとても広く、ちょうど市役所通りの



護岸は石の表情を出し
自然石を使った舗装で

市民協議会で話し合ったテーマもふまえて、2 回の会合をもち、たたき台について意見交換を行ないました。(第 2 回には模型も登場)

【こんな感じで考えてみました】

◇オリジナルの石積はできるだけ出し、コンクリート護岸は石積の表情を出そう

◇川と広場と道が一体となった整備にしよう ⇒生活の裏となつてしまっている川とまち(生活)をつなげるように

◇歴史ある格の高い場所として自然石を使った舗装にしよう

◇柵は目立たせず照明でアクセントを⇒主役は石積と川



2 回の話し合いを通じていただいた多くの意見や市民協議会でまとめられたテーマを参考に設計し、相橋周辺の石積調査も実施して、秋からの工事着手→完成(一部)に向けて、また会合をもたせていただきます。

鳥羽みなとまちづくり シンポジウム

～4 月 16 日(日)午後 1 時 30 分から～
鳥羽商工会議所かもめホール

とばみなとまちづくり市民協議会のみなさんにより、これまでの取組みなどについての発表もさせていただきます。

ぜひお越しください。(いっしょに配布された別チラシをご覧ください、できるだけ事前の申込みをお願いします。)

■ 国道沿い 海を見る、感じるエリア ～海が体感できる～

■ マリントウン 21 鳥羽ベイエリア ～新しくて鳥羽らしい～

◇国道沿いエリアとマリントウン 21 エリアはつながって、「鳥羽 BAY(ベイ)とよべるみなと」とか、新しいものとして、歴史と対比して考えよう。新しい海のエリア。

◇鳥羽は真珠のまちでもある。これまで真珠についての意見がなかったが、マリントウンのタウンのシンボルとして取り上げよう。ただ、真珠のまちのイメージは具体的に描きにくく、どう具体化するかが難しい。

◇真珠のまちは鳥羽全体に通じるが、イメージがつくりにくい気がする。課題。

◇マリントウンは、生活面とおもてなしの 2 面性がある。

◇鳥羽の産業である水産業のイメージがちょっとほしい。五感の部分でも。

■ 駅周辺 海と歴史物語のジャンクション ～海と歴史のイメージを切り替える～

◇スクランブル。海のイメージ・歴史のイメージを切り替えて、相互に行ったり来たり。

■ アンダーパス 場面を切り替える装置 ～過去と未来のタイムトンネル～

◇過去から未来、未来から過去へ切り替える装置の役割。舞台が変わる装置。

■ 妙慶川周辺 水のある風情 ～歩きたいきれいな川辺～

◇鳥羽の物語がわかる、きれいな川が大事。

◇夜も歩けるように明かりがほしい。風情のある。

■ 城山周辺 伝えたい海城 ～正しく伝える 本物で 鳥羽のオンリーワン～

◇鳥羽の歴史文化のつまった場所

◇行きやすい城山に

■ 岩崎あたり 食べ歩きを楽しむストリート ～食のエリア～

◇あいまいというか、漠然としていて、特色がない。昔からのイメージは、食べ物屋、土産物屋のならんだ観光客の楽しみのエリア。

◇イメージよりは、歩きたくなるというのが大事になる。

◇観光客に「干物を売っている店がないか」よく聞かれるが、魚屋さんは日曜日しまっている。

■ 本町・大里あたり 昼と夜 2 面性が魅力のエリア ～色のまち・門前町の風情～

◇やっぱり色のまち。それと常安寺、賀多神社などを中心にした歴史との 2 本柱。おごそかな部分とあやしい部分。

◇みなとまちと色のまちは切り離せない。ほしりがね。

◇常安寺はすごいお寺。曹洞宗の総本山で三重県に外にはない。明治天皇も泊まっている。

■ 中之郷あたり 昔ながらの台所エリア ～昔みなとまちの台所 商人の町～

◇蔵があるというのは、昔の台所と結びつく。

◇武家屋敷があったということで、いいものがそろっていた。

◇歴史的なものとは所的なものとは、やはり中之郷は台所。商人のまち。

■ 生活商業全体 自分たちが好きになれるまち ～それぞれの良さを活かす～

◇各まちごとに特徴があるので、テーマを変に統一するのは無理がある。

◇自分たちのまちを好きになるというのは統一。

◇雰囲気良くておいしいものが食べられたら好きになっていく。

■ 丘陵地(鳥羽三山) 祈りの歴史と美しい眺望 三山エリア

◇御木本幸吉が別荘を建て、安藤広重が絵に描いた、やはり眺望が一番。それが基で何かはじまってくる。

◇祈りというイメージはあまりなかったが、それぞれに成田山、金刀比羅宮、大山祇神社と祈りの場所になっていた。金刀比羅宮の上には、昔白蛇の化身があらわれて鳥羽を治めてもらっていたという歴史もある。

◇日和山、歴史にもっと注目してよ。

※ これまで担当していた 西岡係長 から、4月1日の人事異動により南川 が担当係長になります。よろしくお願ひします。

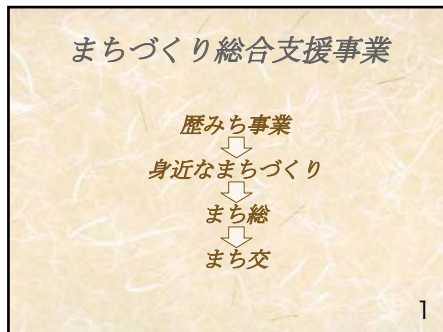
担当：鳥羽市まちづくり課
岡村、南川、舟橋
TEL. 25-1174、1178

事例報告・歴史と水辺を活かした景観形成

三重県桑名市／宮崎県日南市油津

石川雅己／桑名市都市整備部長

小野寺康／小野寺康都市設計事務所取締役



●お城、街道、川 歴史の流れるまちづくり桑名

みなさんこんにちは、桑名市の石川でございます。今日は、桑名の事例についてご報告したいと思います。まずは桑名でどのような景観の取り組みをしてきたかをお話したいと思います。振り返ってみますと、中心市街地問題を意識し始めたのが、平成に入る頃です。桑名は木曾三川に近く、水害から町を守ることがまちづくりの出発点でした。戦後は地盤沈下が激しくなり、内水排除の取り組みをしてきましたが、それが一段落し、人々の気持ちとしても財政的にも町をきれいにする余裕が出てきたのが昭和の終わり頃でした。その当時「景観形成モデル都市事業」という建設省の制度がありました。この事業に桑名市が採択され、景観計画を立案したのが昭和62年からの2カ年です。先ほどの発表にあったように、今や行政と市民の協働は不可欠ですが、当時はまだ行政が勝手にやる雰囲気かぬぐい去れない状況でした。その一方で景観形成モデル都市は、今の景観法で言う景観形成地区のように一定の地域に規制をかけることができないと認定しないという大きな縛りがありました。ところがありがたいことに、モデル都市事業が3カ年ほど続くうちに制度改変があり「うるおい緑景観モデル事業」が平成2年に創設されました。桑名はこれに則ってまちづくり計画を作りました。

そうした背景でまちなかで色々な事業を動かしてきましたが、今日お見えの篠原先生と知りあうきっかけとなったのが、中心市街地のまちづくりでした。その中で鉄道の高架化という大きな事業に手を挙げることになりました。専門的には鉄道連続立体交差化事業といって、鉄道と交差する道路を鉄道の上に上げるのではなく、鉄道を一気に高架化してしまおうというものです。当時ご指導いただいた佐々木政雄さんも今日はお越しですが、平成3年にこの事業に手を上げて、平成5年から国の補助調査をいただいて、動きそうな気配がありました。ところが、桑名にはJRと近鉄の二つの線路、それから支線の近鉄養老線、北勢線(現・三岐鉄道)という、4本の路線があり、事業費を試算したところ約1000億円、周辺の区画整理などを含めると2000億円は楽に突破してしまうということがわかりました。そこで事業の実施は難しくなりました。

その一方で、桑名は城下町ですから、城下町のまちづくりはきちんとしなければならないという認識があり、平成8年に建設省の「歴みち事業」に採択され、調査を行っていました。ちょうど当時、東大の篠原先生が水都ランドデザイン研究会を立ち上げていて、その視察で桑名に来られました。その時に桑名には外堀がよく残っているので、これを大事にしなければならないとご指摘をいただいたのが平成9年でした。そこで、平成10年から、城下町のまちづくり計画を始めました。計画は市民の方々と議論を重ねながら比較的順調に立案できました。先ほど鳥羽でも県の事業との関係のお話がありましたが、当時、桑名城の外堀に漁船の避難施設をつく



石川雅己・桑名市都市整備部長

るという国の事業があり、すでに工事が始まっていました。コンクリートの矢板護岸で囲った水面を作るもので、半分近くまで工事が進んでいましたが、それを篠原先生がご覧になって「これはこのままなの」と言われ、当時は市から国に物申すわけには行きませんから「このまま…ですねえ」というお答えをしました。そうしたら歴史的にも由緒のある外堀をこのままにするとは何を考えているんだ、ということで、篠原先生、佐々木政雄さんや小野寺康さんにご協力いただきながら市も頑張り、兩岸を歩行者専用道路にするという都市計画決定を行い、外堀の整備ができました。国との折衝は非常に難儀しましたが、きちんとした法的手続き、市の熱意、そういったものを積み重ねていくことによって実現したのだと思います。ところが工事を進める中でもうひとつやっかいなことが出てきました。先ほど篠原先生からお話がありましたが、行政は「村」で仕事をしています。篠原先生は港湾や道路という仕分けをされましたが、行政は計画と工事も村が違います。もうひとつ勘定奉行（財政）があります。この3つは戦争です。計画と工事の関係は市民の方には直接関係ないのかも知れませんが、この2つの垣根を低くしなければ、行政村と市民村が協働したまちづくりにはつながらないのではないかと思います。これが歴みち事業を経験した私の実感です。

それでは映像をお見せしながら実際の歴みち事業の中身をご紹介します。

【スライド1】

全部略してありますが「歴みち事業」「身近なまちづくり」「まち総」「まち交」これは街路の整備に関する国の補助制度の流れです。はじめは歴史的なものから、中心市街地全体に適用できるようになり、現在のまち交事業では、地方に一定の裁量が認められており、道路や河川の整備だけでなく駅周辺のサインや情報交流館を作るといった柔軟なものにも使えるようになっています。鳥羽市さんももちろん活用されていると思いますが、この制度は是非うまく使うべきだと思います。

【スライド2】

これは平成8年の歴みち事業の補助調査の時に作った事業の宣伝のためのパンフレットです。

【スライド3】

桑名市はこの赤い所、三重県の北です。



事業計画図

6



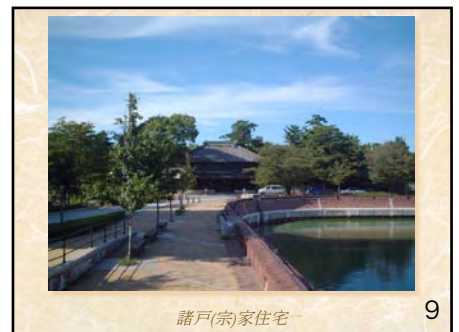
七里の渡し

7



六華苑（国重要文化財）

8



諸戸(宗)家住宅

9



(施工前)

(施工後)

住吉入江部

10



【スライド4】

これは桑名のまちなかです。ご覧のように川に囲まれていて昔は毎年のように浸水しており、内水排除のためにポンプ場をたくさん作っています。JR、近鉄など4本の鉄道があり、国道1号や23号、東名阪道や最近では第2名神が開通しました。

【スライド5】

ここが旧城下町の中心市街地で、揖斐川に面して桑名城がありました。堀の一部や細かい区画道路は今も城下町時代の姿をとどめています。歴みち事業で整備したのは図の左上の外堀です。



【スライド6】

これがまちづくり総合支援事業の全体の計画図です。

【スライド7】

これが広重の描いた七里の渡しです。桑名は東海道の42番目の宿場町として栄えていました。写真は現在の七里の渡しの状況です。



【スライド8】

桑名は戦災で旧市街はほとんど焼けていますので、古い建物は残っていません。唯一自慢できるのがジョサイア・コンドル設計の旧諸戸邸です。これも民間の方がお持ちでしたので取り壊されるところでした。それを桑名市で譲り受け、買い取り費用を含めて総額25億を掛けて整備しました。



【スライド9】

ここからが歴みち事業で整備した堀の様子です。先ほどの洋風の建物はこの森の奥にあります。その手前に明治期の和風の建物があり、その前が外堀になっていました。水面の所にコンクリートが見えていますが、矢板護岸があり、その上がこのコンクリートで、この事業がなければずっと上までコンクリートだったのですが、篠原先生のアドバイスと小野寺さんのデザインでこのようなレンガを張る形での整備が実現しました。



【スライド10】

左が施工前の堀の状況です。先ほど妙慶川が臭くて汚いとおっしゃっていましたが、まさにそのものです。市内の汚水はポンプ場を通じてこの堀に流されていました。ここからまたポンプで揖斐川に流していたわけです。それがこの事業で見事に甦っています。下水道も完備し、現在は揖斐川の水がこの堀に入っています。



【スライド11】

これは仕上がりの遠景です。

【スライド12】

これは先ほどより少し上流側の外堀です。分かりにくいかもしれませんが右側の汚い建物は商店街の裏側の姿です。堀も水がなく、空堀になっていました。これを歴みち事業で遊歩道、駐車場とともに整備しました。

【スライド 13】

橋の部分にウッドデッキを設けて人の集まるスペースを作りました。

【スライド 14】

雪が降った時の状況です。

【スライド 15】

商店街の方が掃除を手伝ってくれています。

【スライド 16】

このような姿で商店街の方々が定期的に掃除の作業をしています。

【スライド 17】

これは商店街の中です。三八市（さんぱちいち）と言いまして、3と8のつく日に市が立ちます。1回に1万人くらいの人 comes。この商店街は50数軒ありますが、ほとんど仕舞屋がありません。この三八市で持っています。ということは月に6日の商売で成り立っているということです。

【スライド 18】

こういったサインもまち総事業で整備しました。

【スライド 19】

これは今日と同じようにシンポジウムをやっている様子です。計画づくりや事業にご意見をいただきたい時にシンポジウムをやっております。これも補助事業の一環です。

【スライド 20】

平成13年に、慶長の町割りから400年経ったことを記念して、桑名のまちづくりを振り返って未来にしっかりつなげていこうという趣旨で「まちづくり極意くわな流」という本を作りました。三重大学の浅野先生に編集委員長になっていただき、公募の編集委員の方々に作業をお願いしました。私は1年で作れると思っていましたが、3年かかりました。この編集委員の方々はみな熱心で、仕事が終わった7時すぎから集まって、12時までかかることはざらでした。準備も含めると数十回は打合せを重ねたと思います。

【スライド 21】

町を知ってもらおうということで、まち総事業の一環として「桑名ワンデイウォーク」というイベントを実施しました。こうしたイベントを通じて、市民の方々にまちの様子やまちづくりの進捗状況をお知らせし、ご意見をいただいています。

長くなりましたが以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。



事例報告・歴史と水辺を活かした景観形成
—お城、街道、川 歴史の流れるまちづくり桑名—

石川雅己（桑名市）

1 きっかけを振り返ってみると

- ・ 景観まちづくり
- ・ 1千億円の巨大事業
- ・ 水都グランドデザイン研究会

2 歴道事業でまちづくり

- ・ 計画づくりは順調に
- ・ 難儀なはなし

3 歴道事業の実際

- ・ くわなのまち
- ・ 外堀今昔
- ・ まわりも少しは変わったかな
- ・ 大変だけど効果の上がるソフトな事業

4 余韻（幸せなこと）

- ・ 骨格、筋力、栄養素

●油津・堀川運河

小野寺です。よろしくお願いいたします。

私は設計事務所をやっておりましてデザインでまちづくりに関わっていますが、桑名がきっかけとなって、地元に入って行って特に地元の職人さんと一緒に仕事をするようになりました。その状況が油津では進化して非常に興味深いことになっています。今日はそれをお伝えしようと思います。

【スライド1】

これは桑名です。

【スライド2】

右は諸戸邸の古いレンガ倉庫、左ができ上がったレンガの護岸です。照明や防護柵は全部鋳物でできています。

【スライド3】

ここは台風の際に船が避難してきて係留します。その時に係留ロープが外れないようにこんな形の係留施設を作ったのですが、防護柵と一体とした鋳物で作りました。

【スライド4・5】

桑名は鋳物の町ですので地元の職人さんと一緒に発泡スチロールの模型や木型を作って形を決めていくというやり方をしました。本当はいろいろとすったもんだがあったのですが、最終的にはでき上がったものが桑名の町によく合って説得力のある風景ができ上がったと感じます。油津ではこれを進化させる形で仕事をしています。

【スライド6】

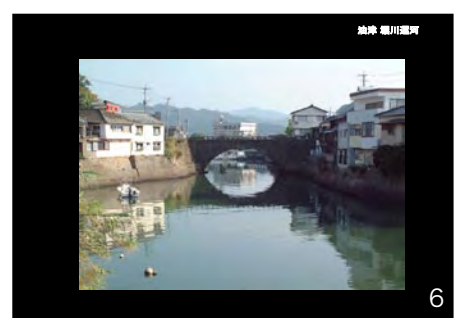
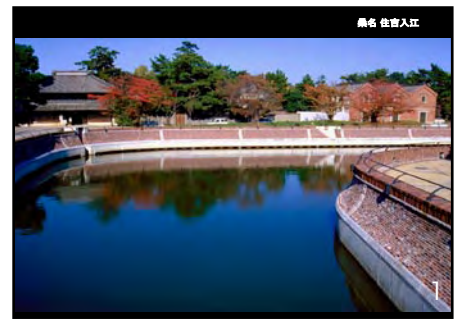
油津の堀川運河は、寅さんの映画にも出たことがあります。もともと江戸時代にできた運河です。

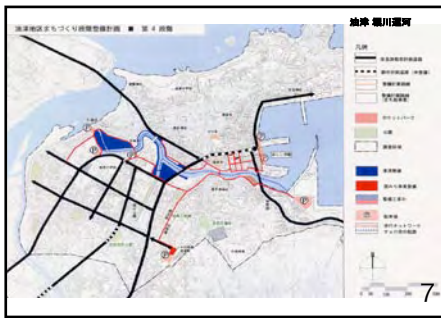
【スライド7】

運河は左側の広渡川から油津港まで作られました。現在整備しているのはそのちょうど中間辺りです。運河が分かれるところに三角形の緑地を整備するのですが、ここに橋を掛けることになりました。

【スライド8】

堀割の開削は江戸時代ですが、護岸の石垣は明治から昭和の初期までかけて、「請願工事」といって地元の材木商がお金を出して整備されました。広渡川の上流には木材の産地で有名な^{おび}飫肥があります。飫肥は最近NHKのドラマ「わかば」の舞台にもなりましたが、飫肥藩はここ油津を飫肥産木材の、いわば流通センターとして整備しようとしたわけです。写真に見えるのは全部木材で、貯木場や加工場がひしめいていたのが油津です。この流通センターは水産物の水揚げにも使われるようになり、マグロ景気で盛り上がった時期もありました。





小野寺康・小野寺康都市設計事務所取締役

【スライド9】

その歴史的価値のある石垣の前を埋め立てて遊歩道を作ろうというのが最初の計画だったのですが、特に歴史資産である石垣に手をかけようというものではなかったのです。それが篠原先生の尽力もあって工事にストップをかけ、壊れたところは積み直して保存修復しつつ、石垣を活かした整備をしようということに方向転換をしました。そのために1年間ほど工事が止まりました。この写真の場所では石垣の前に護岸ができていますが、これから整備する所は歴史的護岸が水面の第一線に出てきます。

【スライド10】

石垣の前を埋め立ててしまったところは仕方がないので、それを前提に模型を作りながらデザインを詰めていきました。

【スライド11】

これができあがった姿です。右側の石垣はすべて測量した上で壊れた石材は交換して積み直しました。

【スライド12】

整備前の風景が左の写真です。コンクリートを剥がすと古い石垣が出てきました。

【スライド13】

右の整備前の風景がこのようになりました。ずいぶん変わりましたね。

【スライド14】

今できた部分の対岸が三角緑地と呼ばれる部分です。地元の協議会を経たずいぶん議論してデザインを決めてきましたが、せっかく積み上げたデザインでも、ある協議会での一人の方の発言がよかったので、全面的に見直しをかけてやり直したという経緯があります。住民参加のデザインとはそういうものであると思います。

【スライド15】

議論を進める中で、昔橋がかかっていたところに木橋を掛けて欲しいという話になりました。ただし普通通りの木橋は現在は法規上作れません。新しいデザインにならざるを得ない。そこで、新しく地場の飴肥杉を使って、

かつ伝統工法（釘金物は使わない）で、地元の職人さんと一緒になってこの木橋をデザインし、これをまちづくりの基盤にしようと考えました。木材の耐久性や夏の日差しを考慮して屋根付き橋にしました。それも地元の女性が「私は屋根付き橋がいいと思います」の一言からはじまりました。始めはみんな戸惑いましたが、よく考えたら「そのアイデアはいい」ということで決まったものです。それがこの形になりました。

【スライド 16】

橋の部分は 10m くらいしかありませんが、屋根の方が長く、屋根付き橋というより「橋付き屋根」という感じです。面白いのは橋の部分で、地場産の飫肥石を重しに使うって橋桁を両岸から張り出し、真ん中にまた桁を載せるようになっています。問題はこの桁の大きさで、模型では小さく見えますが、この桁のものを実際に作るうとすると百年ものの杉が必要でした。

【スライド 17】

これを検討するために地元でワーキンググループを作りました。地場材で地元の職人さんを使って伝統工法でやりましょうということではじまったんですが、最初はみな半信半疑でした。桁材が取れないことを想定して猿橋（短い部材を重ね合わせ、少しずつ張り出して作る橋）形式も検討しましたが、やはり最初の案の方がダイナミックで面白い。

【スライド 18】

そこで本当に桁材が取れないかどうか、ワーキングで見に行きました。写真では桁材が取れるかどうか図っています。この日は結局「取れないね。じゃあ猿橋（型）で行くか」ということで終わったのですが、すぐ次の日に担当者から連絡があり、材が取れないのは日南の名折れだから、なんとか材を取る、ということになりました。そこで設計の方も部材の大きさを調整することになり、ぎりぎりの断面を再度検討しました。

【スライド 19】

そこでもう一度見に行き、とりあえず材を切り出してみよう、ということになりました。これは森林組合の人と大工の熊田原くまたはらさんが、この木材から 1 本の桁を取るか、細い 2 本の桁を取るかを相談しているところです。最終的には、芯持材ですが 1 本取りすることにしました。

【スライド 20】

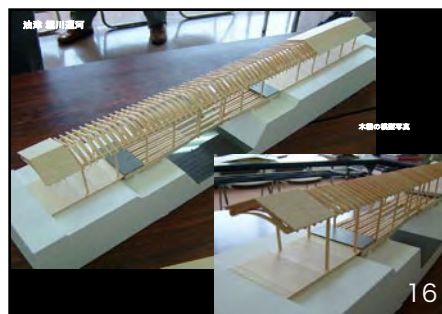
これが桁材を切り出しているところで、右が切り出された桁です。

【スライド 21】

それを熊田原さんが加工していきます。まるでメカジギでも捌くようでした。

【スライド 22】

これが先ほど切り出した部材ですが、模型のときよりも高さが低く、幅が広がっています。逆に設計をこの材にあわせました。このあとからです。熊田原さんの活躍がはじまるのは、熊田原さんが杉を使って模型を作った





19

いと言い出しました。ところが縮尺を聞くと 1/5 だと言うのです。それでは長さ数 m の模型になってしまいます。

【スライド 23】

私はまさかと思っていたのですが、それを本当に作ってしまったんです。これは模型とは言わないですね。試作品とっていい。これがまちづくりの議論の会場に持込まれるようになりました。



20

【スライド 24】

でかいでしょう（笑）。これでも部分模型です。橋付き屋根の橋の部分だけです。

【スライド 25】

手すりや屋根などデザインが決まっていない部分は熊田原さんが適当に作ってくれました。



21

【スライド 26】

1/5 の模型ですがびくともしないくらい重く、この模型のおかげで「これは行ける」という手応えが掴めました。

【スライド 27】

我々は屋根に曲げ木を使いたいと思っていました。舐肥杉は柔らかく粘るので和船に使われていたんです。しかし、これが曲がるかどうか問題になりました。そうしたら熊田原さんがある時、「まがりました」と言うんです。



22

【スライド 28】

熊田原さんはこんなものを作っちゃったんです。これは風呂釜が3つついていて、木を煮るんです。それを上から押して曲げてから取り出して、乾燥させるんです。

【スライド 29】

本当に曲がりましたね。後ろにいるのは構造デザイン担当の空間工学研究所の岡村さんとそのスタッフで、「ほんとに作っちゃったよ」とあきれ返っています。こんなふう実際に作れるとわかってくると、我々に対して職人さんから逆提案が出てくるような状況の進化がはじまりました。こうなると部分的に本物を作ろうということになり、宮崎県が原寸大の模型製作を熊田原さんに発注してくれました。



23

【スライド 30】

これは本当の試作品です。この試作品を見て、根太の太さを調整したり、トップライトの検討をしたりと、さらにデザインは進化しています。この木橋はようやく今年度施工できることになりました。このやり方を我々は「職人たちの住民参加」と呼んでいます。



24

我々は東京者ですから、デザインが完成したらいずれ地元を離れるわけですが、だからと言って適当なものを作って儲かってればいいや、ということでは面白くない。地元にとって「これは自分たちが作った」ということ

になるのが一番よく、その方がデザインは後々まで残るものになると思う。
その意味でこのやり方はいいスタイルだと思っています。

最近、我々は橋や広場、プロムナードをデザインしているのではなく、地元
の人の誇りやプライドみたいなものをデザインしているのではないかと
思うようになりました。この橋もでき上がったら地元の森林組合も職人さん
も、これはウチらの材だ、これは俺がやったんだ、と言えるようになる
のではないかと思います。まちづくりはそうやって息吹を吹き込んでやっ
てその場所に定着するんだということを、私は油津の人たちから教わった
と思います。この試作模型はお祭りやまちづくりのイベントがあると、わ
ざわざいって解体して会場に運ばれて組み立てられます。それを見て「立
派な四阿あずまやができるのね」と言う人もいます（笑）。まさかこれが40mも伸
びるとは思わないのでしょうか。でも人によっては「いよいよ本当にでき
るんですね」と言ってくれます。我々もこれを見て地元の誇りになるもの
が作れるかなと感じながらまちづくりを進めています。

これからまちづくりは新しい段階に入っていくと思いますが、はっきり言っ
てこのやり方は全然儲かりません（笑）。そのこととまちづくりは関係ない
ので、何とかしていきたいと思っています。以上で終わります。



本格始動・鳥羽みなとまちづくり

コーディネーター

内藤廣／建築家・東京大学教授・GS デザイン会議代表

パネリスト

木田久主一／鳥羽市長

亀川洋／鳥羽商工会議所副会頭

水谷伸子／手づくり工房きらり運営委員長

野村史隆／鳥羽市文化財専門委員

篠原修／政策研究大学院大学教授・GS デザイン会議代表

西村浩／ワークヴィジョンズ

●内藤

皆さん長丁場でお疲れと思いますが、今しばらく我々の議論にお付き合いください。これからは砕けた感じで行きたいと思います。最初にGS デザイン会議について補足しておきますと、先ほどみなとまちづくり市民協議会の紹介で出てきました矢野和之さん、西村浩さん、小野寺康さんも会議のメンバーです。それ以外にも総勢で約120名の各分野のエキスパートが集まっています。国や自治体の役人や首長さんもメンバーになっています。

さてこれまで、みなとまちづくり市民協議会の非常に楽しいプレゼンテーション、桑名と油津のわかりやすいお話をいただきました。どの点でも結構ですので、まず木田市長から印象をお話しいただけないでしょうか。

●木田

今日は大変興味深いお話を聞かせていただきました。これまで先進的なまちづくりをしている場所へ行って話を聞くと、すばらしい町ができていて羨ましい、鳥羽は遅れていると感じていたのですが、こつこつとまちづくりを積み重ねれば、人が訪れて楽しいまちになるということを感じました。今日のお話を聞いて、私たちもやれば素晴らしいまちづくりができるという自信ができました。

●内藤

篠原さんはみなとまちづくり市民協議会のプレゼンテーションを聞いてどのように思われましたか。

●篠原

正直に言った方がいいですよ（笑）。まずひとつは、鳥羽を含めてどこでも最初は行政の担当者と一般の市民の間の距離は相当遠いですよ。今までは市や県がやる事業をいちいち市民に説明していませんから、市民にしてみれば、「またお上がやっているな、文句ぐらい言わなきゃ」という姿勢です。だから最初はお互いに苦労されたと思います。2番目に、私の勤め先は東京で、横浜に住んでいます。九州から札幌まであちこちにまちづくりのお手伝いに行きますが、結局自分の住んでいるところはやっていません。それに首都圏から行くわけですからそう頻繁には現地に行けないんです。委員会だと年に2、3回、多くても5、6回でしょうか。ですからさっき紹介されたように市民としょっちゅう顔を突き合わせてわいわいやって、きっと夜はお酒を飲んでいるんでしょうし、深く入ってやっているという感じが出ていますよね。そういう意味で実に羨ましい。本当いうと、小野寺君や西村君と替わってほしい（笑）。僕は役所との折衝などの調整が多いから損な役割です。

鳥羽のまちづくりは登山でいうとまだ2合目くらい、まだまだ登りかかったところですが、親の代やそれ以前から住んでいて、自分の子供や孫に残すものだから、熱が入って当然です。市の方も、市民の方も、NPOの方もそうやって未来につながっていく仕事をされているわけで、まことに恵まれた仕事に関わっていると思います。

●内藤

篠原さんは全国のいろんな都市を飛び回っているとおっしゃいましたが、なかなか自分の所をよくすることには関われなくて、特に奥さんからは文句ばかり言われて一番の地元が手薄になっていると聞いております。私もおんなじで

あります（笑）。

それでは亀川さん。僕は亀川さんとは15年来の知り合いなのですが、今日は商工会議所の立場でいらっしゃっているんですね。まあ、でも気楽にご発言をお願いします。

●亀川

皆さん今日はどうもありがとうございます。今日は内藤先生、篠原先生、東大の研究室の方々、その他大勢の方に顔を揃えていただきました。ここまで来たか、という気持ちで感激しております。鳥羽市がまちづくりを本格的に始めたのが5年ほど前でしょうか。ではどんなまちづくりをするのか、そのランドデザインを誰にお願いするのかという議論を市、県、商工会議所、市民の間でしました。その時に、1985年から海の博物館の設計で鳥羽に来られている内藤先生にお願いしようという声が上がりました。私はその前から内藤先生にお世話になっていたの、関係者と一緒に内藤先生を口説き落とすために東京の事務所までお邪魔しました。すでに日本中にプロジェクトを抱え、東大の教授の立場もあり、非常にお忙しい先生に、何とか鳥羽のまちづくりのお世話を引き受けていただきました。その時、鳥羽市はここまでやる気があるのか聞かれたのを思い出します。本当にやる気があるのか、中途半端なことなら始めからやめましょう、と先生はおっしゃいました。市も県も何が何でもやります、とお答えしました。

今日のこれまでのお話を聞いてきて、ハードを作ることはもちろんですが、ソフトについても重要であり、また、ハードができあがる過程もまちづくりなのだと感じました。まちづくり交付金事業には一定の期間がありますが、50年100年先を考えてまちづくりに取り組まなければならないと考えています。

●内藤

先ほどの鳥羽みなとまちづくり市民協議会のプレゼンテーションを見て、これまでと雰囲気が変わってきたという印象をお持ちですか。

●亀川

私は直接参加したことはないのですが、間接的に話は聞いております。30数回のべくとる会議を経てカモメの散歩道ができ、また市民協議会の7回の議論でまちづくりの方向性がまとまってくると、ずいぶん皆さんの感じが変わってきたと思います。我々がやらなきゃいかん、そういう気持ちになってきたと思うんです。最初は専門家にランドデザインを作ってもらえばまちづくりは進むんだと、私を含めて皆さん思っていたと思いますが、そうじゃない、油津の例でもお話がありましたが、そこで生活する市民、昔からの産業・技術もまちづくりに関わっていることがわかっていただけたと思います。まちづくりを考えるのは本当は鳥羽にいる我々だと、篠原先生も内藤先生にもそのように言われているように感じました。

●内藤

そのど真ん中に仕掛け人である西村さん。当事者だから半分報告のような形になるかもしれないけれど、少し発言をお願いします。

●西村

GS会議が東京以外でやるシンポジウムは鳥羽が初めてなのですが、今回は私が鳥羽でのシンポジウムを開催をお願いしました。いろいろな要素がシンポジウムの開催にちょうどよいタイミングだったからです。ひとつはみなとまちづくり市民協議会が苦勞してようやく7回の開催まで漕ぎつけ、ようやくまちづくりの議論ができるようになったことです。岡村課長補佐を始め市の皆さんは、最初は市民の方々にサンドバックのように叩かれていました（笑）。また、カモメの散歩道できて約1年ですが、私が来た頃はまちづくりは何も動いていませんでした。そういうときにいくら言葉で説明してもまちの方にリアリティを持って感じてもらうことはできない。カモメの散歩道はべくとる会議という限られたメンバーで議論して作ったものですが、それでも成果として気持ちのいい場所ができた。その現実をリアルに見ることができる。この2つの条件が揃ったところで皆さんにこれからのことを考えていただきたいと思い、シンポジウムの開催をお願いしました。

これからがまちづくりの本丸の城山です。なんとか城山の姿を見せたいと思い、市民協議会で議論をしているところです。

それから皆さんご存じだと思いますが、鳥羽水族館の駐車場をお借りして鳥羽城の石垣を掘っています。残念ながらまだ本物は出てきていません。あの辺りの、近鉄の下をくぐると駐車場だらけという雰囲気は鳥羽のまちなかに魅力がないという印象を一番感じさせるところだと思います。あそこに九鬼の城の雰囲気を感じさせる石垣が出てくれば、鳥羽の印象はずいぶん変わると思います。そのきっかけを皆さんのご協力でなんとか掴みたいと思っています。ご協力をお願いします。

●内藤

西村さんには後でもう少し具体的な意見を聞いてみたいと思います。ひとあたりお話をいただきましょう。紅一点、水谷さんも当事者の一人ですが、このところカモメの散歩道ができたり、市民協議会ができたり、色々な動きがあります。またご自身が関わられている「手づくり工房きらり」についても結構ですでお話しいただけますか。

●水谷

私は商工会議所が5、6年前に始めた「まちづくり工房21」の中で、空き店舗対策のために実施した「手づくり工房きらり」の運営委員長をさせていただいています。生まれてからずっと鳥羽に住んで、鳥羽のよかった時も悪くなった時も経験してきました。私は商売をしており、このままではまずいのではないかと、何かできることがあるのではないかと考えていた時に「きらり」のお話があり、運営に関わりました。始めてから何年か経って、特に近所の女性に協力していただいているうまく運営しています。また、駅前から「きらり」のある岩崎通りの人通りが非常に少なくなっています。そこを何とか賑やかしくするために漁師町鳥羽にちなんで「まちなみ水族館」を始めました。私たちはランドデザインということはわかりませんが、自分たちでできることを一生懸命やろうということで活動してきました。「きらり」は商工会議所の、「まちなみ水族館」は空間快適（県）と市の商工観光課のご支援をいただきながらやってきました。

●内藤

素晴らしいですね。でも今の話はいい話ばかりなので、困っていることはないんですか。（会場笑）

●水谷

困っている話はいっぱいあります。例えば岩崎通りは高齢化がとてつもなく進んでいて、何か活動しようと思ってもご協力いただける年代の方が限られています。「きらり」の販売員にしる、「まちなみ水族館」にしる、本当は岩崎の方だけで運営できればいいんですが、他の町や市外の方のサポートで運営しています。高齢化だけでなく、人口自体も減っています。「きらり」を作った時は、こういう店がたくさんできればいいなと思ったのですが、「きらり」だけで手いっぱいという所です。

●内藤

そうですね、結構深刻な状況ですね。

次は野村さんにご発言いただきたいと思います。私が20年前に海の博物館の設計を始めた時、野村さんが学芸員でいらっしゃいました。僕は最初の3年間は野村さんに口を聞いてもらえなかったんですよ。東京から建築家がやってきてなんだ、という感じで。3年目くらいからようやく一言ふたこと口を聞いてもらえるようになりまして、今は普通に話ができるようになりました。僕は野村さんほどこの地域の歴史に詳しいエキスパートはいないと思います。この地域に限らず全国の漁村文化にこれほど情報量が多い人はいませんから、鳥羽市は本当に素晴らしい頭脳を持っていると思います。それで…

●野村

もういいです、いいです。やめてください。（会場笑）

●内藤

いや、少し持ち上げとかないとまた口を聞いてもらえなくなるかと思って。

鳥羽市が少し歴史を考えてみようかという方向に行きつつありますが、それは今までなかったことだと思います。これ

に巻き込まれている感じを話してもらえますか。

●野村

海の博物館を作る時に内藤さんにお会いしましたが、ものを作ると言うのは楽しいですね。僕は昔から面白いことしかやらずに生きてきて、面白ければとことんやります。

今皆さんは「みなとまち鳥羽」ということでまちづくりに取り組んでいます。皆さんが本当に港町としての鳥羽をわかっているかどうか気になります。きちんと鳥羽の歴史をわかって取りかかれないと、感じだけで話を進めるといつか剥がれてきます。できるだけ多くの人に鳥羽が港町としての歴史を持っていることを知ってもらいたい。今皆さんが感じている港町鳥羽というのは幕末から明治の始め頃のことだろうと思います。しかし鳥羽の歴史はもっと根が深く、最近日和山の辺りが大変貴重な中世城郭の跡だということがわかってきました。日和山の高城(たかしろ)に御殿があり、海側に突き出た尾根は砦として使っていたことが鳥羽小学校の移転先候補地として調査をしてわかってきました。城山は近世の城ですが、日和山はそれ以前に橘氏が使っていたところです。妙慶川は伊勢の国と志摩の国を分けていましたが、あの小さな川を隔てて中世の城と近世の城が並んでいる。そういう場所はとても珍しいと思います。そういうことを踏まえた広い視野で考える必要があるのではないかと思います。それ以前にさかのぼると、(伊勢)神宮の品物を運ぶ船が伊勢湾を航行していました。さきほど桑名の話がありましたが、江戸期には尾張平野や美濃平野の米を桑名で千石船に積み、必ず鳥羽に寄って日和を見てから江戸に向けて出発したといえます。明治44年に鳥羽駅まで鉄道が来て、それからは鉄道輸送がはじまりますが、それまでほとんどの荷物は船で運んでいましたから、古代からずっと鳥羽は港町として重要な位置にあった。まちづくりをするときにはどの時点に注目するのが問題になりますね。

●内藤

野村さんご自身はどのあたりに注目するのがよいとお考えですか。

●野村

港として活気があったのは、上方から江戸へ樽もの(味噌や醤油、灘の酒など)を樽廻船で運んでいた近世、江戸から明治中期あたりです。幕府も航路を重視して神島や菅島に灯明を整備していました。やはりそのあたりが対象になるだろうと思います。

●内藤

ありがとうございます。このシンポジウムのタイトルは「本格始動 鳥羽みなとまちづくり」ということですが、多分野村さんが言いたいのは、とかく九鬼の城に目が行くけれど、歴史全体のパースペクティブを広げていったん整理した上でまちづくりに取りかかった方がいいんじゃないか、ということですよ。

●野村

そこまで神経質にはなっていないんですけど、計画者がある程度そういう認識を持っておけばいいんだと思います。まちづくりの過程でいろいろな問題が起こってきても、それに切り返しのできる情報を持ち、それに基づいた態度を表明できれば、それでいいだろうと思います。

●内藤

ここからは少し具体的な話もしたいと思います。市長は立場上言いにくいことは多々あるかとは思いますが、妙慶川についてはどのようにお考えですか。

●木田

今日のシンポジウムで私は考えを変えたことがあります。妙慶川周辺の景観整備という計画を聞いた時に、担当課長に「あんなに臭いところを整備してお客さんに来てもらったら、お客さんは不平を言って帰るんじゃないか。なぜそこからやるのか」と文句を言ったんです。他にもっとやる場所があるやろうと。そうしたら課長が「今悪いから、あそこをよくすると、みんなが水をきれいにしなければならぬと感じるだろう」といったんです。私はそれをきれいにするの

は行政の仕事だろう、個人で下水道ができるわけがない、と思っていたんです。けれども、桑名でも同じような状況だったのがよくなったということを知り、課長の言ったことはある程度正しかったのかということを感じました。油津の橋については、難しい木橋づくりを、知恵とアイデアを出しあって実現の見通しがついたというのを聞いて、人間はスタートすればいい方向に向かってかなりのことができるんだと感じました。そこにいる課長を持ち上げる訳ではありませんけれど、そういう意味では妙慶川をきれいにするということについてもアイデアを出しあってやっていけるんじゃないかという自信がついたような気がします。

●内藤

水谷さんはどうですか。

●水谷

私たちもあの川をどうしたらいいかずっと気になっていて、空間快適の活動で橋にペンキを塗るとか、川底にどんなものが落ちているのか調べてみるなど、いろいろやってきました。確かに市長さんの言われるように下水道を整備しないとどうしようもないんですが、それでもあそこに住んでいる皆さんに、汚水の量を減らせば川がきれいになることに気付いて欲しいので、イベントの時に排水の所で生ゴミを流さない工夫についての提案などもしてきました。汚い川に目が行かないように、外に花壇を作ってみるとか、そんな試みもしました。

●内藤

篠原さんはまちづくりでは川づくりが効果があると常日頃からおっしゃっていますが。

●篠原

川に限らず海や人工的に作った堀割運河でもいいですが、水辺の整備をすると非常に効果があることは実感しています。僕は土木ですから橋を架けたり広場を作ったりしてきましたけれど、水辺の整備をすることが町にとって一番インパクトがあります。これは実感です。僕の仕事で言うと、300mを超えるような大きな橋をいくつも掛けてきましたが、まあいい橋ができたと思って町はあまり変わらないんですよ。ちょっとした広場を作っても変わらない。道を整備すると少しインパクトがありますかね。だけど水辺の整備をやると一番町が変わる。これは事実が証明している。桑名も油津もそうです。だから水辺を整備するのがいいんじゃないか。もう少し理屈っぽく言うと日本の都市は水が中心になっているんですよね。戦国時代末から江戸時代初期にかけて作られた城下町では水のコントロールが重要だったんです。桑名のように水害の問題だけではなく、運河を掘って物資を運ぶ、雨が降った時の排水路にする。お城によっては堀に魚を飼って戦争になった時の蛋白源にするとか。日本だけでなく、多分アジアの都市も同じです。ところが明治維新以来、我々のあこがれは欧米の都市で、それを真似ようと一生懸命やってきた。ヨーロッパの町をよく見てみると川はそれほど重要ではなく道路中心なんです。そして道路が交わる場所に広場を作ったり、教会の前に広場を作ったり。要するに向こうは陸の都市なんです。本当は素質が違うのに道路を造って欧米型都市を目指してきた訳ですが、実はもともと日本の都市の素質は水にあってそれが魅力でもあるのです。野村さんもそう言われたので心強いですが、間違った真似をする以前の都市の姿に戻るべきじゃないかと思います。もちろん建物をすべて2階建てにしるなどとは言いませんが、水を中心とした都市がいいのではないかと。水はこれからの時代にとっても重要ではないかと思います。いつまで車を使うのかというエネルギーや地球環境の話もありますし、都市の中に水面があると気候緩和にいいんです。水面は夏涼しく、冬は暖かい。そういったことで地球環境問題からも水がいいと思っています。

そういう意味で妙慶川は重要です。絵図を見ると城の山側にも堀があったわけだから、今住んでいる人がいるので難しいかも知れないけれど少しでも水面を増やすのがいいと思います。散歩するにしてもカモメの散歩道のように水を見ながら、時には魚が跳ねるのを見ながら歩くのが気持ちいいし、夕方水を渡ってくる風は涼しいですよ。

これが私が水を強烈に推薦している様々な理由です。

●内藤

僕の印象も言わせていただくと、はじめまちづくりに関わった頃は、たしか妙慶川の話はアンタッチャブルだったんですよ。色々難しい問題があるから触ってくれないなど。でも妙慶川の難しさが鳥羽の難しさの象徴のような気がするん

です。妙慶川の問題は短期間には解決しないかも知れないけれど、常に頭の中に入れておくべき問題だと思っています。うまく行けば桑名のようになるかもしれない。それは知恵の出どころとお金の出所と、いろいろな問題を解決していい方向に行くといいと思っています。

●篠原

ちょっといいですか。大事だけど難しい問題というのは先送りにしちゃだめなんですよ。まちづくりは合意の取りやすい易しい所からやりましょう、とやっていくと、町にとってはあまり重要でないところに、無駄と言ってはいいすぎだけど、お金を使うことになる。難しくても大事なところからやる、というのが僕はいいと思っています。西村君はこれからもっと苦しむと思うけど（笑）。

●内藤

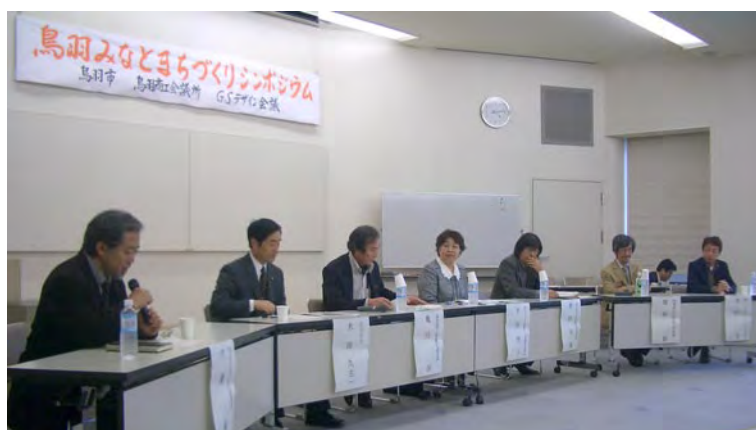
もちろん始めるんですよ。でもいきなり急にはうまく行かないかも知れない。西村さん、少し妙慶川について発言してください。

●西村

妙慶川が重要だと言うことはもう何年も前から言い続けてきたことです。まち総事業のときに市の方が作られたプログラムがありまして、正直にいいですけど、事業の要望があったところや、やりやすいところを中心にして作られていました。それをなんとか変更してもらったり、整備の順序を変えてもらった結果、ようやく妙慶川や城山を中心としたプログラムに近づいてきました。ただそれをやっているうちに時間が過ぎて、整備にかけられる時間が少なくなってきたという問題がありますが、今、市民協議会などの場で必死にやっているところです。

妙慶川は高度成長期ならフタをされていたところですよ。そしてその上を公園にするというのが全国各地で行われました。でもその時、堀や川をもう一度きれいにしようとする市民の方が立ち上がった所は、今観光地として立派に立ち直っているところが多いです。近江八幡や柳川、島原もそうでしょうか。そういう所で川をきれいにしようとしたのは行政でなくて市民の方なんですね。近江八幡では青年会議所の方が堀をきれいにしようとする清掃を始め、それに市民が賛同し、最終的にはその青年会議所の方が市長になりました。言い方は悪いですが、妙慶川が鳥羽の生死を分けると思います。市民の方々が協力して汚れた水を流さないようにしてくれるかどうか、それに我々がデザインの専門家の立場から適切なアドバイスができるかどうか。ここ1、2年の話ですので多くの市民の方に関わっていただいて真剣に議論したいと思います。

それから妙慶川に2本の橋がかかっています。相橋と大黒橋です。大黒橋は比較的新しい橋ですが、相橋は九鬼の時代から陸側の大手門に架かる歴史的に重要な橋です。あの橋を油津のように木橋にするということも考えられます。ただ今は車が通っていますので、本当に木橋にするのか、車を通すのかどうかということが問題となります。市民の方々の利便性に関わりますので、皆で議論しなければ前に進みません。



●内藤

川の話はNPOが活躍するケースが多いですね。去年の土木学会デザイン賞を取った三島の源兵衛川はNPO 8団体が結束してドブ川がきれいな清流になりました。デザインもいいし、工場廃水をもらってきて水量を増やすなどの工夫もあって実にきれいな川です。それもNPOが頑張っ、それを行政がサポートするという流れです。

妙慶川と城山に関しては鳥羽小学校の問題はあるにせよ、大筋では九鬼水軍の城と城下として考えていく方向に落ち着いていると感じています。もうひとつ大きな問題として鳥羽マリンタウン 21 から鳥羽駅前までの話があります。ここは商業も漁業も絡みますが、この辺りについて亀川さんにお考えを聞きたいのですが。

●亀川

マリンタウンの第1期工事が進んでいます。皆さんご承知のようにこの場所は鳥羽の海の玄関口であると同時にJRと近鉄鳥羽駅の目と鼻の先にあつて、非常に重要な場所です。鳥羽駅の海側はもともと海だったところを埋め立てて今の形があり、その先に港を整備し、さらにその外側にマリンタウンを整備する計画が進んでいます。海から見ても伊勢方面から来る国道から見ても、この地区は鳥羽の顔になると思いますが、どのような顔にするか、まだ計画が煮詰まっておられません。この計画をきちんと作る必要があります。残り時間も少なく、財政事情も非常に厳しいですが、鳥羽がどのような方向性を目指すのか内外に発信し、我々自身がその方向性を共有しなければならない。50年100年かけてもやるというしっかりした構想を、分かりやすい形で、一日でも早く発信しなければならないと思います。

近鉄と国道で海側と山側が分断されているのは市民にとつても観光客にとつてもうまくない。これをどうするか、また、先ほどから言われている妙慶川の問題。これらを鳥羽市は最優先の課題として考えて欲しい。厳しい財政事情の中で1年や2年で全部できないでしょうが、5年たつたらここまで、10年経つたらここまで、というヴィジョンを鳥羽市は発信する必要があります。

昔から我々は川と関わりながら生活してきましたが、蛇口をひねれば水が出る、浄化槽も整備された。そうやって便利さを追求した結果、妙慶川はあんな状態になりました。しかし、市民はそれで満足しているわけではない。自分で汚れた水を流しながら満足していない。臭い、汚いと不平を言う。しかし、観光客にその状況を見せて、もう一度来てくださいとは言えません。これではいけない。もちろん全部浄化槽を整備すれば川は甦るわけですが、そう簡単ではありません。しかし、きちんとした構想のもとに少しずつ着実に整備を進めていく必要があると思います。

●内藤

ありがとうございました。市長、お金がたくさんあるといいんですけどね(笑)。市長はマリンタウンについてどのようにお考えでしょうか。

●木田

マリンタウンの話が始めに出てきた時はバラ色の話だったと思うんです。その頃私は市議会議員をさせていただいたんですけれども、埋め立てた土地は坪100万円で売れる、そのお金で事業費が賄えとか、高い塔ができてお客さんがたくさん来てくれるとか、いい話ばかりでした。ところが、バブルが崩壊して、今は全く計画が無いような状態です。今のままでは港湾センター自体がもっと規模を縮小して切符売り場のようなものしかできず、そこへ行く通路しかない、というようなことになる。100億かけてそれではとんでもない税金の無駄遣いだと思います。私なりにもいくつかアイデアはありますが、みなとまちづくり市民協議会やデザイン戦略会議からアイデアが出て、みんなで考えていくという機運ができることが大事だと思っています。マリンタウンについてもいいアイデアが出て、市民の皆さんと行政が協働できることを期待しています。この事業の成否が鳥羽市にとって重要な問題だと言うことは認識しています。皆さんに期待するところも大きいですが、行政としても真剣に対応したいと考えています。

●内藤

水谷さん、さきほど駅前に関するご発言もありましたけれども、その先にあるマリンタウンについてお考えをお持ちでしょうか。

●水谷

一番街、パールビル、その先の港湾センターなど、ずいぶん老朽化しています。港湾センターなど観光客の方が見たら寂れた感じに映るでしょうし、パールビルもずいぶん空き店舗が増えました。鳥羽に来る観光客が減っている状況もありますので、マリントウンに商業施設などを作る時に、集客できるかどうか出店する企業がいるかどうかなど、考えなければならない問題が多いと思います。ですが、今あるものをどうすればいいかということで手いっぱい、なかなかマリントウンについて考えられる状況にはないのが私たちの実情です。

●内藤

女性陣の中でも少しずつ声を上げた方がいいですね。

●水谷

そうですね。身近なことには一生懸命やるんですが、先の計画的なことにまではなかなか話ができませんね。

●内藤

僕個人の意見を言うと、行った先を魅力的にしなければならないと思うんです。カモメの散歩道ができましたがあそこからの風景は割と開けていますよね。あれは鳥羽の新しい風景だと思うんですが、佐田浜の所は少しスケールダウンしたい入江です。そこが魅力的になれば人は自然に行きます。人が流れて初めて商業が成立しますので、今は逆（商業で人を誘導する）を考えて過ぎているのかな、と思います。

●亀川

マリントウンの当初の計画ではタワーができると色々な構想があったわけですが、それはバブル期の話でして、現在は全く白紙になっている状態です。ところが港の整備と埋め立て地はそのままの計画で進んでいます。でき上がったものをどう活用するのが課題になっています。港の整備と同時に港湾センターと定期船の発着所はそちらに移ります。計画当初は港湾センターに複数の企業が入居する計画でしたが、これについても実現性に疑問があります。かといって切符売り場だけではうまくない。鳥羽は離島を抱えています。離島の市民に対する行政サービスの拠点としての活用も考えるべきではないか、例えば市内の専門医を誘致するといったアイデアもあります。もうひとつ、現在鳥羽市庁舎を今かなりの金をかけて耐震改修をしています、仮に佐田浜に市庁舎をマリントウンに置いたと考えると、かなりの人数がそこに通うことになる、離島に対するサービスもよくなります。鳥羽駅も近いですから市外から訪れる方も便利だと思うんです。今の市庁舎は駐車場も狭く、駅から中途半端に遠いです。すでに2億4千万かの金をかけて耐震改修していますから、すぐに移動というわけには行きませんが、駅周辺に人を集める方策の選択肢としては考えられるのではないか、長期的に市庁舎をマリントウンに持っていくとしたらどのような計画が考えられるか、検討する価値があるのではないかと思います。

バブル期の計画については私は個人的には消してくださいとお願いしたいところですが、それに替わる計画が無い以上、市民の皆さんの頭に残っていますし、その状況では意見も言いにくい。大企業が鳥羽に資本投下することも考えられませんが、あくまでも鳥羽市民が中心になって考えていかなければならない。すでに基盤整備には100億の金を投じていますから、白紙に戻せる話でもない。そういうことを踏まえて議論を進めていかなければならないと思います。

●内藤

なかなか熱が入ってきましたが、ここで野村さんに廣野邸についてご報告いただきたいと思います。廣野邸がどんなものが皆さんあまりご存じないと思いますので。

●野村

廣野邸は藤之郷にある江戸時代に大庄屋を務めた旧家で、現代の当主で10代目になります。昨年度国の有形登録文化財に申請し、2週間ほど前に登録の通知が来ました。近々登録の銘板が来るとしますので、何らかのセレモニーをやると思います。廣野邸は藤之郷の道がクランクになったところにありますが、北側の正面と、明治22年の写真はほとんど違いがありません。母屋とそれに続く棟、蔵が2つありまして中に立派な庭があります。母屋の屋根裏に上って

棟札を見つけました。文政8（1825）年とあり、約180年経っていることがわかりました。それに続く平屋の建物には内蔵があり、薬屋の道具や生活用具が詰まっていた。幕末の安政の津波の時に天井から一尺まで水に浸かったという記録があり、その経験に基づいて、蔵は地面から4尺（120cm）程高くして建てています。登録されたのは母屋と内蔵、土蔵2棟です。内蔵から日本最古のオルガンである長尾オルガンが見つかりました。そういう貴重な町家です。文化年間にサンゼンドウ（？）という薬屋をはじめ、明治になってカスノウシャ（？）という屋号に変わって戦後もまもなくまで続いてきました。廣野家は代々藤右衛門を襲名しています。薬屋をはじめたのは6代目、8代目は社会のことをよく考えている人で、私設の公園を廣野家の上、富士見台という公園を作りました。また、現在ミキモトの所有地になっている場所も後樂園を作りました。どちらにも同じ方位石がありますが、鳥羽に鉄道が来て、観光客を受け入れることを考えて設置したものだと思います。鳥羽に貢献された家です。

●内藤

鳥羽の町をずっと見続けて来たような建物ですね。さきほど市民協議会の方も鳥羽の範囲としてマリンタウンから廣野邸あたりまでとおっしゃいましたが、廣野邸はそういうアンカーみたいな所にあるんですね。そろそろ時間が参りましたので、最後に篠原さんと木田市長から実はこれを言いたかったというようなことがありましたらお願いします。

●篠原

内藤さんに誘われて鳥羽に来るようになったわけですが、駅について電車を降り、デッキを渡ってきますよね。鳥羽は漁師町、港町、水族館があったりミキモトがあったりというイメージを持っていたんですが、海の見えない町だという印象を持ちました。カモメの散歩道ができて少し見えてきましたが、未だにマリンタウンの方面は海が見えず、一番いいところに立体駐車場があったりします。難しいけれど妙慶川と並んでマリンタウンも極めて重要な課題だと思います。その参考になる事例を2つご紹介します。それは横浜と長崎なので人口や財政規模が異なりますから直接は参考にならないかもしれませんが。横浜は三菱重工が持っていた造船所の跡にみなとみらい21地区としてニュータウンを作りましたが、当初はずいぶん批判がありました。横浜市役所は都心にばかり投資していると。郊外の住宅地は道路が悪いのに何も投資しない。不公平ではないかという話がずいぶんありました。しかし10年投資し続けてなかなかの町になり、ついに日産の本社も来るとうことになりました。総花的にあちこちに投資するのではなく、ここだということに重点的に投資したのは横浜市の見識だったのだと思います。鳥羽でどうなるかは今から議論するのですが、多少批判があっても重要なところに成果が出るまで投資するのがいいのではないかと思います。長崎の例は常盤出島と言う埋め立て地を作って最初は評判が悪かったんです。ところがそこにデザインのプロを集めて公園を作りました。長崎も海辺は倉庫ばかりで港町と言ってもあまり海が見えなかったんです。ところがその公園からは長崎の町中が見えるようになり、若者のデートスポットになったそうです。今度そこに美術館ができました。美術館自体はそんなにいいとは思わないのですが、場所はものすごくいい。そこには入場料を払わなくても行けるカフェができて美術館の屋上にも行けます。すると景色を見ながらお茶を飲む場所ができたので人がいっぱい来るようになったんです。観光客ではなく市民です。それも参考になるんじゃないでしょうか。

●木田

今日は長い時間座っていただいてお疲れだと思います。大変申し訳ありません。今後とも皆さんにはご協力いただきたいと思えます。私は約1年、明日でちょうど投票日から1年ですが、市長をさせていただいて、皆さんご存じの通りさまざまな問題に直面してやってきました。屎尿処理場の問題、鳥羽小学校の建設、入湯税、工業団地の問題、定期船の改革、人口減少、さまざまな問題に取り組んできたのですが、その中で私が真剣に取り組むと市民の皆さんから反発があるということを感じました。今日のまちづくりの問題のように、皆さんに一生懸命やっていただき、皆さんに決めていただいてやる。これが本当に大事なことだと思います。同じことをやるにしても、役所が決めたことよりは皆さんに決めていただいたことの方が満足していただける。そんなことをこの1年間で感じました。逃げるつもりはありません。一生懸命やりますけれども、分担していただいて皆さんの意見を聞き、協働するという方向でやりたいと思えます。マリンタウンを含めたまちづくりがうまく行くことを期待をし、またある程度の自信も持っています。

今日の皆さんの熱心なご参加に感謝し、今後のご協力もお願いしたいと思えます。ありがとうございました。

●内藤

それではここで質問を受ける時間を取りますがいかがでしょうか。

●原田

今日のようにまちづくりについて真剣に話し合ったことはちょっと記憶にありません。鳥羽は高齢化が進み、建物の老朽化も進み、岩崎や妙慶川周辺でまちづくりを進めるのは非常に難しいことと思います。松阪から熊野まで見て回ったことがあります、南の方が割と趣のある建物が揃っています。趣のあるまちを作るには、設計の段階から標準的なデザインを決めて、それに添っていると思われるものには、市がなんらかの形で応援することを必要ではないかと思います。このまちに銘々が勝手な建物を作ったら妙なものになるということで、平成5年でしたか、市に相談して愛知芸大の先生を案を作ってもらい、私どもの一番街や水族館、郵便局についてある程度の統一感が実現できました。ここにいる皆さんは関心のある人ばかり、郷土を愛する心がここにあると思います。今日で終わるのではなく、これから知恵を働かせてまちづくりを進めていただきたいと思います。今日は大変結構な機会を作っていただきましてありがとうございました。

●木田

市もできることは一生懸命やらせていただくということで、個々に努力をしていただいた方のアイデアが生きるように頑張っていきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

●野口

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの野口と申します。今日はカモメの散歩道のお話がずいぶん出ましたが、住民の方もあまり知らないカモメの散歩道の秘密があります。カモメの散歩道のベンチは椅子が二つ並んでいますが、片方は座面がはね上げであがります。そこに車いすやベビーカーがはまるようになっていて、車いすの人とベンチに座る人が同じ位置から海を眺められるようになっています。これはツアーセンターのメンバーがワークショップに参加した時に西村先生にお願いして実現していただいたものです。観光で来られる高齢者や障害者の方には、カモメの散歩道を通って水族館に行ってください、行ったらベンチを上げてみてください、と宣伝をしています。是非皆さんも宣伝してください。これから鳥羽のまちづくりを進める際にも、そういった他の町にはないような配慮をお願いします。私たちもそれに参画したいと思います。

●内藤

質問ではなくて宣伝ですね。口コミというのが何よりの宣伝です。市民の方もちょっとでもいいものができたら、鳥羽にこんなものができた、とできるだけ外の人、内の人に伝えてください。

このあたりで時間も来ましたのでパネルディスカッションを終わりにしたいと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

本日は本当にたくさんの方に来ていただきありがとうございました。それから、開催にかかわった一人として、このシンポジウムの開催に尽力された鳥羽市、鳥羽商工会議所の方に深く御礼を申し上げます。

先ほどパネルディスカッションで西村さんからお話がありましたけれども、このシンポジウム開催のきっかけについて簡単にご紹介したいと思います。2005年の5月にGS会議が立ち上がりまして、さて何をやるかというのを、西村さんや今日発表された小野寺さんを含めた運営幹事会で議論し、シンポジウムをやろうということになりました。しかし、まちづくりについて東京やその近辺に集まってなんとなく問題をわかったつもりになってもしょうがない。GS会議のメンバーはそれぞれまちづくりのプロジェクトを抱えていますので、じゃあその経験をひっさげて、まちづくりをやっている現場に行って勝手に応援しよう、と結論づけました。実は鳥羽市の前に北海道の某市にこんなシンポジウムを一緒にやりませんかと声をかけたのですが、そこはたまたま目的が合わなくて断られました。西村さんが「それだったらぜひ鳥羽でやりたい」と言われ、そのあと、こちらもGS会議のメンバーで、国土交通省におられる福井さんに随分調整をさせていただいて、今日の開催にこぎつけたということです。

今日のシンポジウムの成果はもっと後から振り返るものだと思うのですが、パネルディスカッションで妙慶川の議論をしているときに、市長さんが「いや、わたしは考えを変えた、課長、あなたが正しかった。」という言葉を引き出したというのは、大きな成功ではないかと思います。つまり、まちづくりで悩んでいるのは鳥羽市だけではなくて、日本中が悩んで困っているわけですね。しかしそれぞれの現場だけで困って悩んで頑張ってもなかなか進歩が遅い。今日の場合でいうと、桑名とか油津の一生懸命の取り組みが鳥羽の市長さんの心を打ち、鳥羽が変わるきっかけになるのではないかと思います。次は鳥羽の試みが、またどこか別のまちの方々の心を打って勇気付けるという日が来るんじゃないか。そのためにはそれぞれ頑張ってきたまち同士の情報交換、情報共有が必要です。ですから、このあとの懇親会にみなさんできるだけご参加いただいて、情報共有し、刺激を与えあっていただければと思います。本日は本当にありがとうございました。

来場者アンケート集計結果

質問1：回答者ご自身について

有効回答数 n=39

1. 性別	男 33	女 6			
2. 年代	10代以下	0	3. 職業	学生	1
	20代	4		会社員	9
	30代	10		自営業	4
	40代	10		公務員	17
	50代	9		主婦	1
	60代以上	6		その他	9
4. 職種	商業	1	無回答	1	
	観光業	2	5. 住所	鳥羽市内	18
	農漁業	0		鳥羽市以外の県内	10
	建設	7		三重県外	11
	行政	15			
	教育	0			
	その他	9			
	無回答	5			

質問2：「鳥羽みなとまちづくりシンポジウム」を何で知りましたか。

市の広報チラシ	18
知人の紹介	7
町内会の連絡	1
たまたま通りかかった	0
ウェブサイト	
鳥羽市	6
鳥羽商工会議所	2
GS デザイン会議	5
メーリングリスト	
GS デザイン会議	1
その他	2

質問3：本シンポジウムは、鳥羽のまちづくりを進める上で意味があったと感じますか。理由も簡単にご記入下さい。

a：とても意味があった	16
b：ある程度は意味があった	16
c：あまり意味がなかった	1
d：意味がなかった	0
e：わからない	1
f：無回答	5

理由

a：とても意味があった

- ・鳥羽のまちづくりにとって、市民参加は欠かせないから。(市内 60 代以上男性・無職)
- ・話は聞いていたが実感がなかった。動きだしていることが良くわかり良かった。(市内 60 代以上女性)
- ・官民協働の取り組みを広く知ってもらえるから。(市内 50 代男性・公務員)
- ・まちづくりへの思いを共有できたのではないかと感じた。(県内 50 代男性・自営業)
- ・多くの市民がまちづくりの現状を知ることができた。(県内 40 代男性・公務員)
- ・まちづくり会議のみならず、まちづくりはどうあるべきかについてもわかりやすく解かれた。(県内 40 代女性)
- ・動員で参加した方が少ない。ということは、この催しに意味を感じた人が口コミでいろんな事を広げていってくれるのではと思う。(県内 30 代女性・主婦)
- ・内藤教授が言われていましたが、まちづくりの協議会が立ち上がっている数少ない場所であるということから、シンポジウムを開催することで、鳥羽市民へ広く知ってもらい、まちづくりの機運を高めるという点で意味があったと考えます。(県内 20 代男性・会社員)
- ・情報共有、方向性。(県内 20 代男性・公務員)
- ・GS会議という契機であったが、まちづくり協議会等が積極的意識を受けた。(県外 60 代以上男性・会社員(まちづくり関係))
- ・まちづくりの方向性がまとまってきた。(県外 40 代男性・会社員)
- ・活動内容の整理、今後の方向づけ。(県外 40 代男性・会社員)
- ・様々なアイデアや先行例を知ってイメージを持ってもらえるイベントであったと感じる。途中で帰った方がいたのが残念。休みのタイミングか。(県外 30 代男性・会社員)
- ・市民参加のための情報発信として重要な役割を果たしていると感じる。(県外 30 代男性・公務員)
- ・何をするのか、目的を共有できた。(県外 20 代男性・公務員)
- ・市長の考えが変わった。(県外 20 代男性・会社員)
- ・景観を考慮する上で1人でも多くの市民に聞いてもらう意味で重要であった。(県外 20 代男性・学生)

b：ある程度は意味があった

- ・計画を確かなものにしてほしい。(市内 60 代以上男性)
- ・意識が変わった人も多いのでは。(市内 50 代女性・主婦)
- ・現在の状況が良く判った。(市内 40 代男性・公務員)
- ・参加する人が少しでもまちづくりに理解や協力するきっかけになったのでは。(市内 30 代男性・公務員)
- ・まちづくり事業の再スタートとしていくぎりになったと思うが、関連住民の参加があまりにも少ない。(県内 40 代男性・公務員)

e：わからない

- ・鳥羽市民がどの様に感じたかによる。(県内 50 代男性・公務員)

質問4：本シンポジウムの内容について感想・ご意見があればお聞かせください。

1. 講演「鳥羽への期待」

- ・鳥羽小学校・・・早急に雨漏り修理、モルタルの落下防止工事を。(市内 60 代以上男性)
- ・同感。中之郷の対岸(安久志)も対策を講じて行くべきではないか。(市内 60 代以上男性・無職)
- ・10年20年後が期待できる鳥羽市が有る感じ。(市内 60 代以上男性)
- ・シンポジウムは回を重ねること。(市内 60 代以上男性・自営業)
- ・町がきれいになった観光客が来てにぎわってほしい。観光客にとって楽しい町づくりを期待する。(市内 60 代以上女性)
- ・市外の方の協力で進んでいるが、地元の協力・協働が大切である。(市内 50 代男性・公務員)
- ・鳥羽への愛着心があることがよくわかりました。今後ともいろいろな方向で鳥羽をサポートしていただきたい。(市内 50 代男性・自営業)
- ・市民一人一人が地域を愛してほしい。そこから始まると思う。(市内 50 代女性・主婦)
- ・鳥羽市に関わる方々を大切にし、協働の必要を感じた。(市内 40 代男性・公務員)
- ・もう少し長い時間を取ってほしかった。(県内 50 代男性・公務員)
- ・鳥羽の課題が理解できた。外からの見方は同じようだと思います。(県内 50 代男性・自営業)
- ・鳥羽というまちの可能性について信じていきたいと思いました。(県内 40 代男性・公務員)
- ・まちづくりの課題の整理、戦略的な展開が必要だと感じた。(県内 40 代男性・公務員)
- ・外から見る鳥羽についての辛口の意見も交え、これからどうしていくべきかの指針を示されたように感じた。(県内 40 代女性)
- ・篠原さんも内藤さんもこれだけ鳥羽のことを考えていてくれてびっくりです。それに応えるだけのことを、協議会のみなさんたちがやってきたんだと感じました。ベクトル会議の方とか。(県内 30 代女性・公務員)
- ・街全体をゆっくり散歩できる歩道整備をしてもらいたい。(県外 40 代男性・会社員)
- ・鳥羽は歴史遺産があり、海辺という自然景観が残っている場でまちづくりの意識も高い。5年の期間でどれだけのことができるのか楽しみです。(県外 20 代男性・会社員)
- ・鳥羽の経緯と現状が良く判った。(県外 60 代以上男性・会社員)
- ・現在のまちづくりの方向性、目的が理解しやすかった。(県外 30 代男性・公務員)
- ・専門家の方々のノウハウのみでは無く、市民の参加が不可欠である。(県外 20 代男性・学生)

2. 発表「動き出したとばのまちづくり」

- ・中之郷会館改修をまちづくり課は町内会へ提案されました。早急に財政上、耐震補強等の回答をお願い致します。(市内 60 代以上男性)
- ・もっと市民へのPRを。(市内 60 代以上男性・無職)
- ・鳥羽市の未来が見えてきた感じ。(市内 60 代以上男性)
- ・早急にしてほしい。(市内 60 代以上男性・自営業)
- ・今後、市民参加型の町づくりを進めてほしい。(市内 60 代以上女性)
- ・完成後も地元で守るべき(他人ごとにしらない)。(市内 50 代男性・公務員)
- ・NPOの発表者のことばが多すぎてしゃべりすぎ。もっと実際に加わった人の声をもっと聞きたかった。(市内 50 代男性・自営業)
- ・話し合い、会議を重ねて実現していく皆様のご努力と熱い思いが伝わりました。(市内 40 代女性)
- ・NPOの人の発表はとてもわかりやすかった。協働は大切。(市内 30 代男性・公務員)
- ・分かりやすく、楽しく聞けた。(県内 50 代男性・公務員)
- ・色々頑張っていることがわかりました。市民が方向を共有化するにはプロセスと時間がかかるものですが、頑張ってください。(県内 50 代男性・自営業)
- ・鳥羽全体から見たエリアが狭いところ、歴史的史跡の規模が小さいと思うので鳥羽の玄関口としての、この活動の成果を残してもインパクトが弱いような気がします。(県内 40 代男性・公務員)
- ・市民のガンバリどころです。(県内 40 代男性・公務員)

- ・現在の協議会の前身からの流れも示され、過去、現在、未来を示す形で、関心深く聞いた。(県内 40 代女性)
- ・5年という期間は長いようで短いですね。これから計画・施工・完成と進んでいくのに、後4年しかないのはつらいと思いますが、頑張っって欲しいと思います。協議会のみなさん、まちづくり課の方お疲れさまです。(県内 30 代女性・公務員)
- ・市と市民(協議会)が進めてきたことがよくわかった。(県外 40 代男性・会社員)
- ・地元の人がかかわり、まちづくりに対して役所も真剣であることが分かった。まちづくりの動きをできるだけ早く情報公開することで地元の意識も高まるし、私としてはそういう町を歩いてみたいと思った。(県外 20 代男性・会社員)
- ・住民参加の流れがわかり参考になった。(県外 40 代男性・会社員)
- ・楽しい発表でした。(県外 40 代男性・会社員)
- ・話題性、内容、まちづくり工程を十分理解することができ良かった。市民にとっては話題が生活と一体に協働の理由、必要性が理解できたと判断できた。(県外 60 代以上男性・会社員)
- ・司会の活き活きとした語り方と、その後にあったであろう苦難を感じ印象的な発表でした。(県外 30 代男性・会社員)
- ・NPO コーディネーターの進行がうまく聞きやすかった。若干、情報量が多くかけ足のように感じたので、内容整理してみたら。(県外 30 代男性・公務員)
- ・人が集まる様な場を考えるのも大事だが、まちづくりの良い場には自然と人が集まるのではないか。(県外 20 代男性・学生)

3. 事例報告「歴史と水辺を活かした景観形成」

- ・大いに参考になった。これからも頑張りを期待する。(市内 60 代以上男性・無職)
- ・そのとおりです。(市内 60 代以上男性・自営業)
- ・鳥羽の妙慶川の水をどこから増やして流して来るかと思います。生活排水と満ち潮だけではきれいにならないと思う。(市内 60 代以上女性)
- ・桑名での取り組み、日南での取り組みが大変参考になった。仲間の実践に学ぶことが必要。(市内 50 代男性・自営業)
- ・水辺の景色は最高！(市内 50 代女性)
- ・もし地元の人アイデアがなかったら、行動力がなかったら…。すばらしい事例を聞いて感心すると共に勇気がわいて来ました。熊田原さん、最高ですね。(市内 40 代女性)
- ・専門家のアドバイスで景観が守られることを実体として知りました。事業もまちづくりを進めているときに先入観なしに良い悪いの判別ができる人がそばにいることが大切なことだと思いました。(県内 50 代男性・自営業)
- ・事例を見るのは鳥羽ということだけでなく、参考になった。特に歴史や文化がまちづくりにいかに大切かという点は重要だと思う。(県内 50 代男性・公務員)
- ・成功例と鳥羽市の事業構想とをイコールでは考えるには難しいと思いますが、財政的な実情を考えたらもっともって住んでいる住民の意識や参加等が必要だと思いました。(県内 40 代男性・公務員)
- ・ハードと合わせたソフトの展開はどこでも難しい。(県内 40 代男性・公務員)
- ・各まちづくりにおける携わり方、地場産業を生かした整備等、細かく配慮されて進められていることもわかった。(県内 40 代女性)
- ・非常に良かった。(前と後の写真も分かりやすかった)(県内 30 代男性・公務員)
- ・住吉入江、堀川運河、初めて知りました。住吉入江は見にいこうと思います。妙慶川が住吉のように変わるのか、毎日、通っているので、期待しています。(県内 30 代女性・公務員)
- ・最後のデザインがすばらしい。(県外 40 代男性・会社員)
- ・桑名は実際に足を運んだことがあり、また油津の事例についても知ってはいたが、なかなか面白いエピソードがあるのだと思う。(県外 20 代男性・会社員)
- ・歴史の再生はこれからの課題として良い考え。(県外 40 代男性・会社員)

- ・事例による実践は今後の鳥羽のまちづくりに大いに役立ち効果のあるもの、他都市の例を市民がどう受け止めたか興味があります。(県外 60 代以上男性・会社員)
- ・職人の参加のエピソードが、その土地のプライドを作っていくという部分において大変興味深く聞きました。(県外 30 代男性・会社員)
- ・スクリーンが見にくかったので、紙面で欲しかった。(県外 30 代男性・公務員)
- ・事例報告は意味深かったと思う。(県外 20 代男性・会社員)
- ・景観を考慮して良くなることは良いが、自然を尊重させることも重要である。(県外 20 代男性・学生)

4. パネルディスカッション「本格始動・鳥羽みなとまちづくり」

- ・いいパネラーを選ばれた。市民協議会への積極的なご提案を待つ。(市内 60 代以上男性・無職)
- ・明確でわかりやすかった。(市内 60 代以上男性)
- ・他事業例を参考にしてほしい。(市内 60 代以上男性・自営業)
- ・鳥羽らしいまちづくりおもてなしの心を大切に前に進んで行きたいものです。(市内 60 代以上女性)
- ・市長の「考えを変えた」発言に感銘を受けた。(市内 50 代男性・自営業)
- ・大変よかったです。(市内 30 代男性・公務員)
- ・海の町、みなと町を実感できるまちづくりが大切なことだと思います。町には当然歴史があるわけですがやはり土地の記憶を共有した、生かしたまちづくりを進めてください。(県内 50 代男性・自営業)
- ・文化財的な立場の方からの意見や知識を教えてください、鳥羽城のみしか史跡等の認識がなかったので、他の史跡や歴史的事実があることがわかり、それらいくつかの史実をも考慮されたまちづくり事業、鳥羽らしいまちづくりをする必要があると思いました。(県内 40 代男性・公務員)
- ・佐田浜の先は毎、金・土・日・祝日に海鮮朝市を開催すれば？(県内 40 代男性・公務員)
- ・水を中心としたまちづくりの話良かったです。廣野家の話は、またそれだけで、ひとつの物語として聞きたいお話でした。(県内 30 代女性・公務員)
- ・水辺の周辺の整備を期待します。(県外 40 代男性・会社員)
- ・まちづくりにおいては長所をのぼすのではなく、短所をいかに克服し、美しい場所をつくっていくかが重要であるかがわかった。特に鳥羽は歴史的に重要な妙慶川が汚い。そこを克服することによって人が集まるし、環境的にも良いと思った。(県外 20 代男性・会社員)
- ・互いの議論がなかったのでクロストークがあれば盛り上がったのでは。(県外 30 代男性・公務員)
- ・最も面白かった。(県外 20 代男性・会社員)
- ・目線のレベルは開けたものが良い、低いラインで構成されたものが良い。豊かに鳥羽を築き上げていきたい。(県外 20 代男性・学生)

5. シンポジウム全般について

- ・とてもいい企画でした。これからも時々やって下さい。(市内 60 代以上男性・無職)
- ・鳥羽へ観光客を呼ぶ為か？妙慶川の清潔が先か、シンポの先が見えてこない。観光客を呼ぶ為であれば、テーマが違っている。(市内 60 代以上男性)
- ・本音で語る。(市内 60 代以上男性・自営業)
- ・まちづくりのこれからの方向性を市民に明示していただき市民一体となって進んで行きたいもの。(市内 60 代以上女性)
- ・小野寺先生の話、地域の人との誇りをデザインする(お手伝い)…。この気持の専門家と協働あればできる。(市内 50 代男性・会社員)
- ・参考になることが多かった。(市内 50 代男性・自営業)
- ・やはり、高レベルの話で、本来のあり方…。基本をとらえることができた。東京以外で鳥羽が初めてのシンポジウムはすごい。(市内 50 代女性)
- ・日曜日の昼間という事で市民の集まりが少ないのが残念。(東京以外では、初めての開催という事なのでありがたいです。)(市内 50 代女性・主婦)

- ・市職員全てが協働のまちづくりへの意識向上。(市内 40 代男性・公務員)
- ・おもしろく参加できた。(市内 40 代男性・公務員)
- ・参加者が多いのにはびっくりしました。ただ時間おわるのがおそい。13:00 からした方がよかったのでは。(市内 30 代男性・公務員)
- ・時間が長すぎると思う。(市内 30 代男性・公務員)
- ・よかった。(県内 50 代男性・自営業)
- ・動員してでも、自治会や P T A の人たちなど様々な分野の人に話を聞いてもらうほうが良いのではないかなんか関係者みたいな人だけにするのはもったいない気がする。(県内 50 代男性・公務員)
- ・これを機会にさらに市民の関心を深め広くみんなの意見や参加活動をすすめていかないと、行政と一部地域有力者のみの事業になってしまわないか心配もあります。(県内 40 代男性・公務員)
- ・それぞれのプログラム、どれも面白くて、必要なものだったと思いますが、時間が長くてお尻が限界でした。午前と午後で計画しても良かったのでは？プログラムの流れ、順番はよく考えられていて素晴らしかったです。(県内 30 代女性・公務員)
- ・みんなの熱意が感じられてよかった。(県外 40 代男性・会社員)
- ・地方都市で行われるのが鳥羽市が最高ということだったが、今後も各地方都市で開催してほしい。もっと若い人が参加するようなシンポジウムにした方が良いと思った。いい意味であらゆる世代を巻きこんでまちづくりを進めてほしい。(県外 20 代男性・会社員)
- ・市長自らの出席には意義のある事、市民も心強いと思う。(県外 40 代男性・会社員)
- ・全国各地でまちづくりに取り組んでいます。国のサポート体制みたいなものがあったら良いと思います。(県外 40 代男性・会社員)
- ・意義多いシンポジウムであったと受け止めております。できれば、若い人々の参加発言が多ければ。(県外 60 代以上男性・会社員)
- ・全体的にメニューが詰めすぎと感じた。3 時間程度が望ましいのでは。(県外 30 代男性・公務員)
- ・長すぎて疲れた。(県外 20 代男性・会社員)
- ・先生方の意見を一般の方々が聞くことが出来たことは大きな一歩である。(県外 20 代男性・学生)

質問 5：「とばみなとまちづくり市民協議会」の役割についてお分かりになりましたか。

- | | |
|---------------|----|
| a：よくわかった | 16 |
| b：大体わかった | 13 |
| c：よくわからない所がある | 0 |
| d：わからない | 0 |
| e：その他・無回答 | 10 |

質問 6：鳥羽市民の方にお聞きします。とばみなとまちづくり市民協議会に参加したいと感じますか。

- | | |
|---------------|----|
| a：ぜひ参加したい | 3 |
| b：機会があれば参加したい | 10 |
| c：あまり参加したくない | 0 |
| d：参加したくない | 0 |
| e：わからない | 1 |

(アンケート回答者のうち鳥羽市民 18 名)

質問7：今後の鳥羽のまちづくりについて、ご意見をお寄せください。

- ・1. 妙慶川の改修を第1に…改修は石垣よりも先に、ド口のとり除き。2. 日和山城郭もまちづくりに有益。3. マリントウン…これ以上埋立ないよう願いたい。漁場と景観への影響がある為、又、巨費を別の用途に使用する方が良いとう為。集客についての水谷さんの情報は貴重。(市内 60 代以上男性)
- ・いつも財政が制約になる。市民の意見だけでなく、県や国の役割を強力に希求していく必要を感じる。(市内 60 代以上男性・無職)
- ・観光客を誘致するのであれば、観光客のニーズを明確にした方法が検討されるべきである。(市内 60 代以上男性)
- ・活気のあるまちを…(市内 60 代以上男性・自営業)
- ・みんなで町を歩いて知恵を出し合いましょう。(市内 60 代以上女性)
- ・「観光」まちづくりのスタンスは？鳥羽市のビジョンを明確にし、市民と戦略会議をひとつのフレームに入れ、町別のテーマと実施がビジョンの完成につながる。市全体のフレームと都度、情報を発信する(知らせる) ※アンケートの結果を知らせてほしい。(市内 50 代男性・会社員)
- ・本土と離島も含んでほしい。(市内 50 代男性・公務員)
- ・そこに住む人々の参加をいかに増やすかが課題。(市内 50 代男性・自営業)
- ・むつかしい問題を先送りしてはいけない。納得。今日、意識が変わった？人が多かったのではないだろうか？(市内 50 代女性)
- ・マリントウンには、高い建物はたてないでほしい…海が見えるまち、市民が集まるまち。(市内 50 代女性・主婦)
- ・鳥羽の市民が目的や方向性を理解し意見があるのであれば責任をもって発言できる様な、勝手な意見だけで終わらない様な考え方の浸透、関係者が勝手にやっていると言われただけの自慢、誇りとなるものを作りあげれば素晴らしいと思う。(市内 40 代男性・公務員)
- ・妙慶川は大切。(市内 30 代男性・公務員)
- ・人口減少時代には、まちの拡大よりインナーシティの整備を考える方がいいのではないか。マリントウンについては、事業の中止を含めて考えてはどうか。(県内 50 代男性・公務員)
- ・鳥羽は、東京にいた時にも、とても良いイメージだった。でも実態はそれについて来ていないと思っていた。これから、イメージに負けない都市になってほしい。(県内 50 代男性・公務員)
- ・鳥羽の地場産業(第一次産業)を支える人が見えにくい部分のまちづくりなだけに、このエリアからも離島地域や南鳥羽のことも興味がわくまちづくりにして欲しいと思いました。(県内 40 代男性・公務員)
- ・ハードは進む、あとはソフト！どのように市民と一緒にできるか。(県内 40 代男性・公務員)
- ・妙慶川の整備(臭い対策も含め)が最大のポイントになると考えます。まち交の期間は限られているけれど、早い時期に対策に着手することも検討していただきたい。駅(どうやって人・にぎわいをとりもどすか)も今後まちづくりのポイントになると考えます。(県内 30 代男性・公務員)
- ・全国的には有名な鳥羽市が人口 2.4 万人とは思いませんでした。快適な歩行空間の整備を期待します。(具体的なデザインで)(県外 40 代男性・会社員)
- ・住民参加型のボトムアップ方式のまちづくりで頑張ってください。鳥羽にきたのは 7~8 回目になります。鳥羽に旅行でくるときは伊勢神宮や二見浦、スペイン村とのセットになります。そのような所との連携も深めた方が良いと思います。現状鳥羽単体の観光は考えずらしい、マリントウンにはアウトレットモールなど作ってみたいかがでしょうか？(観光客に市庁舎は不要です)(県外 30 代男性・会社員)
- ・今後、まちづくりの状況を見ていきたいと思った。まちづくりに関わる実務の方、それと市民の方に頑張ってもらいたいです。内藤教授がゆるやかな衰退もありと言われてましたが、逆にゆるやかに鳥羽の魅力がにじみ出るような発展を期待しています。(県外 20 代男性・会社員)
- ・その若い人々の力を一層まちづくりの実施に向けて発揮してほしいものと想っております。(県外 60 代以上男性・会社員)
- ・情報発信を活発にしてほしい。(県外 30 代男性・公務員)
- ・駅から海が見えづらいので、ウォーターラインを開けてやれば良い。市のシンボルを一つ挙げて、それをウォーターラインの延長線上に置くと強調されると思います。(県外 20 代男性・学生)

開催概要

- 日時： 2006年4月16日(日) 13:30-17:30
- 会場： 鳥羽商工会議所かもめホール
- 主催： 鳥羽市・鳥羽商工会議所・GSデザイン会議
- 後援： 国土交通省中部地方整備局
三重県
(社) 三重県建築士会志摩支部
(財) 都市づくりパブリックデザインセンター
(社) 土木学会景観・デザイン委員会
- 参加人数： 165名
- スタッフ： 鳥羽市
まちづくり課
中野茂・森田宗生・岡村康史・南川則之・寺本孝夫・舟橋守
企画課
野村憲幸・辻清道・清水敏也
- 鳥羽商工会議所
清水清嗣・佐藤吉彦・浦口久子・小林かおり・岩佐寿・小崎則彦
木田織江・佐々木恵・山本哲也・山崎やよ
- GSデザイン会議
中井祐(東京大学大学院)
西村浩(ワークヴィジョンズ)
福井恒明(国土技術政策総合研究所)
西村渉(ワークヴィジョンズ)
尾崎信(アトリエ74 建築都市計画研究所)